



滋賀県立大学 2016年度 講義概要 (シラバス)

※この冊子は、Web 版シラバスを PDF に変換したものです。文字数の関係で全ての情報が記載されない場合があります。最新の情報や全文は、県大ポータル USPo (<https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/>) でご確認ください。

目 次

1800020	異文化接触論 吉村 淳一 前期	1
1800050	ヨーロッパ地域文化論 橋本 周子 後期	3
1810020	アジア考古学A 定森 秀夫 後期	5
1810060	環琵琶湖地域論A 水野 章二 後期	7
1810090	環琵琶湖保存修景計画論A 濱崎 一志 前期	9
1810100	環琵琶湖保存修景計画論B 石川 慎治 後期	11
1810120	現代中国特論A 横田 祥子 後期	13
1810150	社会学特論A 武田 俊輔 前期	15
1810190	女性史・ジェンダー論A 京樂 真帆子 後期	17
1810220	地域産業論A 塚本 礼仁 後期	19
1810260	地域文化遺産調査・情報論 濱崎 一志 前期	21
1810270	地域文化学特別演習(地域・1回生) 専攻教員	23
1810280	地域文化学特別演習(地域・2回生) 専攻教員	25
1810290	地域文化学特別研究(地域・1回生) 専攻教員	27
1810300	地域文化学特別研究(地域・2回生) 専攻教員	29
1810310	中国文化史特論 辻 正博 前期集中	31
1810340	トランス・ヒマラヤ文化論 棚瀬 慈郎 前期	33
1810360	日本考古学A 定森 秀夫 前期	35
1810380	日本生活文化論 市川 秀之 前期	37
1810400	美術史特論A 亀井 若菜 後期	39
1810420	北東アジア地域史A 田中 俊明 前期	41
1810430	北東アジア地域史B 地蔵堂 貞二 後期	43
1810450	モンゴル・ディアスポラ論A Borjigin Burensain 前期	45
1810460	モンゴル・ディアスポラ論B 島村 一平 後期	47
1810480	対外文化交流特論A 田中 俊明 前期	49
1810500	応用言語学特論A 小栗 裕子 後期	51
1810510	応用言語学特論B Martin Hawkes 前期	53
1810520	英語詩学特論 John Rippey 後期	55
1810530	日英対照言語学特論 小熊 猛 後期	57
1810540	英文学特論 山本 薫 前期	59
1810550	国際文化論特講A 吉村 淳一 前期	61
1810560	国際文化論特講B 橋本 周子 前期	63
1810570	国際文化論特講C 棚瀬 慈郎 前期	65
1810580	国際文化論特講D Borjigin Burensain 前期	67
1810590	国際文化論特講E 島村 一平 後期	69
1810600	国際文化論特講F 河 かおる 後期	71
1810610	国際文化論特講G 地蔵堂 貞二 後期	73
1810620	国際文化論特講H 呉 凌非 後期	75
1810630	地域文化学特別演習(国際・1回生) 専攻教員	77
1810640	地域文化学特別演習(国際・2回生) 専攻教員	79
1810650	地域文化学特別研究(国際・1回生) 専攻教員	81
1810660	地域文化学特別研究(国際・2回生) 専攻教員	83
1820045	生活デザインプロジェクト演習 専攻教員 後期	85
1820050	生活文化学特別演習(生活デザイン分野) 専攻教員	87
1820060	生活文化学特別演習(生活デザイン分野) 専攻教員	89
1820070	生活文化学特別研究(生活デザイン分野) 専攻教員	91
1820080	生活文化学特別研究(生活デザイン分野) 専攻教員	93
1820105	道具デザイン特論A 面矢 慎介 前期	95
1820115	道具デザイン特論B 印南 比呂志 後期	97
1820117	道具デザイン特論C 南 政宏 前期	99
1820135	服飾デザイン特論A 森下 あおい 前期	101
1820136	服飾デザイン特論B 横田 尚美 後期	103
1820137	マーケティング特論 山田 歩 前期	105
1820140	運動処方学特論 東田 一彦 後期	107
1820145	運動生理・生化学特論 東田 一彦 後期集中	109
1820150	栄養応答論 福渡 努 前期	111
1820190	学校栄養教育実践特論 大谷 貴美子 前期	113
1820235	住環境デザイン特論A 宮本 雅子 前期	115
1820236	住環境デザイン特論B 藤木 庸介 前期	117
1820237	住環境デザイン特論C 佐々木 一泰 後期	119
1820250	食品栄養特論 小西 洋太郎 前期	121
1820260	食品機能論 森 紀之 後期	123
1820280	生活文化学特別演習(健康栄養分野) 専攻教員	125
1820290	生活文化学特別演習(健康栄養分野) 専攻教員	127
1820300	生活文化学特別研究(健康栄養分野) 専攻教員	129
1820310	生活文化学特別研究(健康栄養分野) 専攻教員	131
1820320	地域食育実践学特論 今井 絵理 後期	133
1820330	調理科学特論 小川 正 前期	135
1820335	病態栄養学特論 矢野 仁康 前期	137
1820342	臨床栄養管理特論 奥村 万寿美 後期	139
1820361	学校教育論特講 木村 裕 後期	141
1820370	行動発達論特講 竹下 秀子 後期	143
1820391	社会学特講A 大橋 松行 前期	145
1820400	生活文化学特別演習(人間関係分野) 専攻教員	147
1820410	生活文化学特別演習(人間関係分野) 専攻教員	149

1820420	生活文化学特別研究（人間関係分野）	専攻教員	．．．	151
1820430	生活文化学特別研究（人間関係分野）	専攻教員	．．．	153
2930010	日本・地域文化論特別演習	専攻教員	．．．	155
2930020	日本・地域文化論特別研究	専攻教員	．．．	157
2930030	アジア・地域文化論特別演習	専攻教員	．．．	159
2930040	アジア・地域文化論特別研究	専攻教員	．．．	161
2930050	考現学・保存修景論特別演習	専攻教員	．．．	163
2930060	考現学・保存修景論特別研究	専攻教員	．．．	165
2930070	生活デザイン論特別演習	専攻教員	．．．	167
2930080	生活デザイン論特別研究	専攻教員	．．．	169
2930090	健康栄養論特別演習	専攻教員	．．．	171
2930100	健康栄養論特別研究	専攻教員	．．．	173
2930110	人間関係論特別演習	専攻教員	．．．	175
2930120	人間関係論特別研究	専攻教員	．．．	177
2930130	研究方法特論	専攻教員 通年集中	．．．	179
2930140	リサーチ・ワークショップ	専攻教員 通年集中	．．．	181

講義名	異文化接触論					担当教員	吉村 淳一
講義コード	1800020	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号							

授業概要

この授業では言語接触によってドイツ語がどのように変化してきたかについて概観する。その際に、音韻・形態・統語・意味などさまざまなレベルでの言語変化を対象とし、いくつかの具体的な事象を取り上げる。さらにそれらに関する研究例を通じて言語学的アプローチの仕方を学ぶ。

到達目標

(1) 言語現象を様々なレベルで分析する方法を身につけることができる。(2) 言語学的な視点に立って問題提起を行い、資料収集することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	(1)と(2)についてはレポートの成績に基づいて評価する。
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

常に問題意識をもちながら、取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリントを配布します。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜紹介します。

前提学力等

現代ドイツ語のついて十分な知識があること。

履修資格

講義名	ヨーロッパ地域文化論					担当教員	橋本 周子
講義コード	1800050	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号							

授業概要

フランス近代の食 研究に関する重要な先行研究を通じ、その方法論などについて学ぶ。また同時に、18・19世紀フランスの食関連文献を原書で読解し、一次資料の扱いに慣れるための訓練を積む。毎回の授業参加に際しては、一定量のテキストを事前に読んで準備してくることを求める。

到達目標

- (1) フランス近代の美食文化の歴史について知識を得る。
- (2) 自らの関心の在処を知り、適切な資料調査を行ったうえで、それを論理的にまとめることができる。
- (3) 自らの関心事を、他人に説明し、その魅力を説得することができる。
- (4) 研究を遂行するにあたって支障ないレベルのフランス語運用能力を身につけている。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	到達目標で示す(2)(3)については期末レポートで評価する。
上記以外	60	(1)(4)については、日頃の授業での学習姿勢によって総合的に評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	美食家の誕生	橋本周子	名古屋大学出版会	
2				
3				

前提学力等

フランス語中級(フランス語コミュニケーションIIA, IIB, フランス語留学対策)をすべて履修していること。
フランス留学経験があることが望ましい。

履修資格

講義名	アジア考古学 A					担当教員	定森 秀夫
講義コード	1810020	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号	571JHS511						

授業概要

シリアから朝鮮半島までの広大なアジア地域の考古学の成果を概述する。パキスタン・シリアの西アジア考古学、モンゴル・朝鮮の東アジア考古学(朝鮮三国時代および中国はアジア考古学Bで講義)の最新の成果から、アジア地域の歴史は一律ではなく、多様な歴史的過程を経ていること、そしてそれぞれの地域間で様々な交流を通じた文化の融合などが生じてきたことを考察していきたい。アジア考古学の成果は日本考古学の研究にとっても重要な意味があり、アジアの東端である日本の古代史をアジア史・世界史の中で理解していくための思考材料も提供したい。

到達目標

アジア地域の考古学の内容を理解する。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	レポート等
上記以外	60	理解度 (50%)、授業態度 (10%)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリント資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	アジア考古学A				担当教員	定森 秀夫	
講義コード	1810020	単位数	2	開講期			後期
ナンバリング番号	571JHS511						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	アジア考古学概要	アジア考古学の概要
第2回	シリア考古学1	
第3回	シリア考古学2	
第4回	パキスタン考古学	
第5回	モンゴル考古学	
第6回	朝鮮考古学を学ぶための基礎	
第7回	朝鮮考古学 旧石器時代1	
第8回	朝鮮考古学 旧石器時代	
第9回	朝鮮考古学 櫛目文土器時代1	
第10回	朝鮮考古学 櫛目文土器時代2	
第11回	朝鮮考古学 無文土器時代1	
第12回	朝鮮考古学 無文土器時代2	
第13回	朝鮮考古学 原三国時代1	
第14回	朝鮮考古学 原三国時代	
第15回	朝鮮考古学 楽浪郡	

担当者から一言

講義名	環琵琶湖地域論 A					担当教員	水野 章二 / 東 幸代 / 武田 俊輔
講義コード	1810060	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号	571JHS503						

授業概要

琵琶湖を核として、自然的・歴史的・社会的に密接な関係を作り出してきた環琵琶湖地域の特性を、総合的な視点から検討する。環琵琶湖地域の過去と現在を総合的に検討する中で、現代における新しい地域社会のあり方を追求する。授業では、参加者の関心のあるテーマを随時選び、3人の教員と参加者との自由な議論を通じて、環琵琶湖地域に関する認識を相互に深めていくことをめざす。

到達目標

- (1) 環琵琶湖地域における諸問題について、自分自身の観点から課題を設定できる。
- (2) 設定した問題の意味・有効性・可能性などを的確に説明できる。
- (3) 他の人の報告に対して、積極的に議論し、認識を深めることができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	授業における報告および討論 (1) 環琵琶湖地域における諸問題について、自分自身の観点から課題を設定できる。 40% (2) 設定した問題の意味・有効性・可能性などを的確に説明できる。 30%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	環琵琶湖保存修景計画論 A				担当教員	濱崎 一志 / 石川 慎治	
講義コード	1810090	単位数	2	開講期			前期
ナンバリング番号	571JPR506						

授業概要

生活環境が急激に変化しつつある現在、環琵琶湖地域で先人たちがつちかっていた伝統とはぐくんできた文化をあらためて見直し、調査と再評価を通じてこれからのまちづくりに地域の文化遺産と伝統を再生し、活用する方法をさぐる保存修景計画について述べる。講義は滋賀県内の町なみ、集落、文化的景観を中心におこなう。

到達目標

- (1)近江における町なみや文化的景観の現状について理解し、説明できる。
(2)町なみや文化的景観の保存のあり方について、自らの考えを述べるができる。
(3)町なみや文化的景観の活用や地域の活性化について、自らの考えを述べるができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標で示す(1)近江における町なみや文化的景観の現状について理解し、説明できる、(2)町なみや文化的景観の保存のあり方について、自らの考えを述べるができる、(3)町なみや文化的景観の活用や地域の活性化について、自らの考えを述べるができる、について課題レポート(100%)で評価する。
上記以外		

100点満点で採点し、60点以上を合格とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリント資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	環琵琶湖保存修景計画論 A				担当教員	濱崎 一志 / 石川 慎治	
講義コード	1810090	単位数	2	開講期			前期
ナンバリング番号	571JPR506						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	環琵琶湖地域の町なみと集落	
第2回	湖南の町なみと集落1	坂本と堅田
第3回	湖南の町なみと集落2	草津と石部
第4回	湖南の町なみと集落3	土山と日野
第5回	湖西の町なみと集落1	海津と針江
第6回	湖西の町なみと集落2	在原と椋川
第7回	臨地講義	
第8回	湖東の町なみと集落1	旧八幡町と円山・白王
第9回	湖東の町なみと集落2	彦根城下町と山村
第10回	湖東の町なみと集落3	高宮、鳥居本、江頭、武佐
第11回	湖北の町なみと集落1	長浜と木之本
第12回	湖北の町なみと集落2	伊吹、醒ヶ井、柏原
第13回	湖北の町なみと集落3	余呉と菅浦
第14回	臨地講義	
第15回	環琵琶湖地域における保存修景計画のまとめ	
担当者から一言		

講義名	環琵琶湖保存修景計画論 B					担当教員	石川 慎治 / 濱崎 一志
講義コード	1810100	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号	571JPR507						

授業概要

生活環境が急激に変化しつつある現在、滋賀県周辺で先人たちがつちかってきた伝統とはぐくんできた文化をあらためて見直し、調査と再評価を通じてこれからのまちづくりに地域の文化遺産と伝統を再生し、活用する方法をさぐる保存修景計画について述べる。講義は街道、町なみ、集落、文化的景観を中心に、三重県、岐阜県、福井県のなかでも滋賀県に隣接する地域を視野に入れて講義を進める。

到達目標

- (1) 町なみや文化的景観の現状について理解し、説明できる。
(2) 町なみや文化的景観の保存のあり方について、自らの考えを述べるができる。
(3) 町なみや文化的景観の活用や地域の活性化について、自らの考えを述べるができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標で示す(1)町なみや文化的景観の現状について理解し、説明できる、(2)町なみや文化的景観の保存のあり方について、自らの考えを述べるができる、(3)町なみや文化的景観の活用や地域の活性化について、自らの考えを述べるができる、について課題レポート(100%)で評価する。
上記以外		

100点満点で採点し、60点以上を合格とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリント資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	環琵琶湖保存修景計画論 B				担当教員	石川 慎治 / 濱崎 一志	
講義コード	1810100	単位数	2	開講期			後期
ナンバリング番号	571JPR507						

授業計画						
回数	タイトル	概要				
第1回	伝統的建造物群保存地区と文化的景観と世界遺産					
第2回	鯖街道の町なみと集落1	小浜と遠敷				
第3回	鯖街道の町なみと集落2	熊川と朽木				
第4回	鯖街道の町なみと集落3	出町と錦				
第5回	東海道の町なみと集落1	関				
第6回	東海道の町なみと集落2	坂下				
第7回	臨地講義					
第8回	北国街道の町なみと集落1	板取と今庄				
第9回	北国街道の町なみと集落	大野				
第10回	中山道の町なみと集落	関ヶ原と垂井と赤坂				
第11回	八風街道の町なみと集落					
第12回	伊賀街道の町なみと集落1	伊賀上野				
第13回	伊賀街道の町なみと集落					
第14回	臨地講義					
第15回	保存修景計画のまとめ					
担当者から一言						

講義名	現代中国特論 A					担当教員	横田 祥子
講義コード	1810120	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号	571JPR509						

授業概要

現代中国に生きる人々の生活は、急激な経済発展と中国独自の政治体制や制度により、常に変化を余儀なくされ、様々な社会問題が生みだされている。本授業では、こうした問題に対する分析視角を紹介するとともに、現代的課題の検討方法を習得する。

到達目標

- (1) 現代的課題に関する重要概念を理解する。
- (2) 中国の社会・文化に関するトピックについて基礎的理解を深める。
- (3) 研究に役立つ情報や論理的思考を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	(1) 授業での議論を理解し、重要概念を用いている。(20%) (2) 中国の社会・文化に関するトピックを選び、自ら収集したデータに基づき、論じることができる。(20%) (3) 論理展開、結論が妥当である。(20%)
上記以外	40	(1) 関連文献の内容を的確に紹介し、批評できる。(20%) (2) 報告を聞き、議論にて自らの意見を積極的に発表する。(20%)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	社会学特論 A				担当教員	武田 俊輔	
講義コード	1810150	単位数	2	開講期			前期
ナンバリング番号	571JPR502						

授業概要

社会学という学問の概観を把握するべく、社会学の理論、および社会学の各分野に関する講読と講義を踏まえつつ、ディスカッションを通じてその理解を深める。

到達目標

- (1) 社会理論に関する知識に基づいた社会学的な思考の仕方を習得できる。
- (2) 講義内で取り上げた社会学の個別領域について、社会学的な視点から具体例を挙げて分析し、論述できる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	講義内で取り上げた社会学の個別領域について、社会学的な視点から具体例を挙げて分析し、論述できるについては最終レポート (50%) で評価する。
上記以外	50	社会理論に関する知識に基づいた社会学的な思考の仕方を習得できるについては、毎回の授業における発表・報告・ディスカッション (50%) で評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	社会学特論 A					担当教員	武田 俊輔
講義コード	1810150	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	571JPR502						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	講義全体の概要を説明する。
第2回	社会学の理論（ 1 ）	社会学の理論について論じる。
第3回	社会学の理論（ 2 ）	社会学の理論について論じる。
第4回	社会学の理論（ 3 ）	社会学の理論について論じる。
第5回	社会学の理論（ 4 ）	社会学の理論について論じる。
第6回	社会学の個別領域（ 1 ）	ジェンダーについて論じる。
第7回	社会学の個別領域（ 2 ）	都市について論じる。
第8回	社会学の個別領域（ 3 ）	階層について論じる。
第9回	社会学の個別領域（ 4 ）	歴史的環境について論じる。
第10回	社会学の個別領域（ 5 ）	政治について論じる。
第11回	社会学の個別領域（ 6 ）	逸脱について論じる。
第12回	社会学の個別領域（ 7 ）	福祉について論じる。
第13回	社会学の個別領域（ 8 ）	文化・メディアについて論じる。
第14回	社会学の個別領域（ 9 ）	ナショナリズムについて論じる。
第15回	まとめ	講義全体のまとめを行う。

担当者から一言

講義名	女性史・ジェンダー論A					担当教員	京樂 真帆子
講義コード	1810190	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号	571JHS505						

授業概要

日本における女性史とジェンダー論を中心としつつ、女性学など他分野との比較研究も行う。例えば、前近代日本は、中国の儒教の影響を受けた。女性観においても同様である。男性に主導された文化によって形作られたイメージ、建前の中に埋没してしまっている女性の現実の姿、ジェンダーの各時代でのあり方、建前的な家父長倫理が現実浸透していく過程等を洞察する。このような過去・現在・未来をとおしての歴史的考察の中で、現在の女性・男性のあり方を相対化し、未来への展望としたい。Aは日本史を中心とする。

到達目標

- (1) 歴史学におけるジェンダー分析を自分で行う能力を身につけることができるようになる。
- (2) 駆け出し研究者にふさわしい文章作成能力を身につけることができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	適宜行う確認テスト 100パーセント

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	女性史・ジェンダー論A				担当教員	京樂 真帆子	
講義コード	1810190	単位数	2	開講期			後期
ナンバリング番号	571JHS505						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	ガイダンスを行う。 当該年度のテーマ、スケジュールを説明する。
第2回	日本における古代女性史の検討 1	日本古代における女性史を検討する。
第3回	日本における古代女性史の検討 2	引き続き、日本古代における女性史を検討する。
第4回	日本における古代女性史の検討 3	引き続き、日本古代における女性史を検討する。
第5回	日本における中世女性史の検討 1	日本中世における女性史を検討する。
第6回	日本における中世女性史の検討 2	引き続き、日本中世における女性史を検討する。
第7回	日本における中世女性史の検討 3	引き続き、日本中世における女性史を検討する。
第8回	日本における近世女性史の検討 1	日本近世における女性史を検討する。
第9回	日本における近世女性史の検討 2	引き続き、日本近世における女性史を検討する。
第10回	日本における近代女性史の検討 1	日本近代における女性史を検討する。
第11回	日本における近代女性史の検討 2	引き続き、日本近代における女性史を検討する。
第12回	日本におけるジェンダー論の検討 その1	引き続き、日本のジェンダー論を検討する。
第13回	日本におけるジェンダー論の検討 その2	引き続き、日本のジェンダー論を検討する。
第14回	日本におけるジェンダー論の検討 その3	引き続き、日本のジェンダー論を検討する。
第15回	総まとめ	総まとめを行う。

担当者から一言

講義名	地域産業論 A				担当教員	塚本 礼仁	
講義コード	1810220	単位数	2	開講期			後期
ナンバリング番号	571JPR504						

授業概要

今日、地域の振興方策に関する議論が活発であるが、そのなかでも地域産業の育成という問題の重要性や緊急性は非常に高い。本講義では、農林水産業における「売れる」特産品づくりや地元中小企業群による製造業（＝地場産業）の実情について、地域経済上の役割または機能といった側面から分析・評価していく。なお、隔年開講の地域産業論Bでは、第三次産業（商業・サービス業）を扱う。

到達目標

- (1)経済地理学の発展的理論を理解し、農林水産業の動態を説明することができる。
(2)経済地理学の発展的理論を理解し、地場産業の動態を説明することができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	
上記以外	40	ゼミ形式の文献発表による。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特定のものを使用しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テーマに沿った文献等を配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	地域産業論 A					担当教員	塚本 礼仁
講義コード	1810220	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号	571JPR504						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	
第2回	農林水産業の自立と産地戦略 1	基礎・発展理論
第3回	農林水産業の自立と産地戦略 2	米
第4回	農林水産業の自立と産地戦略 3	野菜
第5回	農林水産業の自立と産地戦略 4	果樹
第6回	農林水産業の自立と産地戦略 5	畜産物
第7回	農林水産業の自立と産地戦略 6	水産物
第8回	農林水産業の自立と産地戦略 7	海外事例：中国の対日水産物輸出
第9回	地場産業の存続と革新 1	基礎・発展理論
第10回	地場産業の存続と革新 2	滋賀県の地場産業 1
第11回	地場産業の存続と革新 3	滋賀県の地場産業 2
第12回	地場産業の存続と革新 4	伝統的工芸品産地 1
第13回	地場産業の存続と革新 5	伝統的工芸品産地 2
第14回	地場産業の存続と革新 6	産業観光
第15回	地場産業の存続と革新 7	海外事例：サードイタリー

担当者から一言

講義名	地域文化遺産調査・情報論					担当教員	濱崎 一志 / 石川 慎治
講義コード	1810260	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	571JPR508						

授業概要

歴史的環境を構成する町なみや集落、遺跡や遺構などの地域文化財の調査と情報化について述べる。デジタルデータの作成、編集、発信について具体的に解説する。

到達目標

- (1)遺跡や建造物などを対象とする文化財のデジタル測定の基礎を理解し、実践できる。
(2)デジタル測定により、えられた3次元モデルをCGを用いて表現できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標で示す(1)遺跡や建造物などを対象とする文化財のデジタル測定の基礎を理解し、実践できる、(2)デジタル測定により、えられた3次元モデルをCGを用いて表現できる、については毎回課する課題(100%)で評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリント資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。

前提学力等

文化財情報論を修得していることが望ましい。

履修資格

講義名	地域文化学特別演習（地域・1回生）				担当教員	専攻教員 / 東 幸代 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 京樂 真帆子 / 定森 秀夫 / 田中 俊明 / 塚本 礼仁 / 中井 均 / 濱崎 一志 / 水野 章二	
講義コード	1810270	単位数	8	開講期			
ナンバリング番号	571REG601						

授業概要

地域の文化にこめられた歴史的伝統や現代的意義を理解し、これらに関する研究を深めていくため、各自が専攻する分野に応じて、文献講読やセミナー形式での報告・討論・評価を行う。

到達目標

(1) 修士論文の作成において欠かせない専門的な知識や技術を習得できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	修士論文の作成において欠かせない専門的な知識や技術を習得できるについては、報告の内容で評価を行う。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教員の指示による。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教員の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化学特別演習（地域・1回生）				担当教員 専攻教員 / 東 幸代 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 京樂 真帆子 / 定森 秀夫 / 田中 俊明 / 塚本 礼仁 / 中井 均 / 濱崎 一志 / 水野 章二
講義コード	1810270	単位数	8	開講期	
ナンバリング番号	571REG601				

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	各担当教員より、各回の内容・スケジュールを説明する。
第2回	地域文化学特別演習 その1	
第3回	地域文化学特別演習 その2	
第4回	地域文化学特別演習 その3	
第5回	地域文化学特別演習 その4	
第6回	地域文化学特別演習 その5	
第7回	地域文化学特別演習 その6	
第8回	地域文化学特別演習 その7	
第9回	地域文化学特別演習 その8	
第10回	地域文化学特別演習 その9	
第11回	地域文化学特別演習 その10	
第12回	地域文化学特別演習 その11	
第13回	地域文化学特別演習 その12	
第14回	地域文化学特別演習 その13	
第15回	地域文化学特別演習 その14	
第16回	地域文化学特別演習 その15	
第17回	地域文化学特別演習 その16	
第18回	地域文化学特別演習 その17	
第19回	地域文化学特別演習 その18	
第20回	地域文化学特別演習 その19	
第21回	地域文化学特別演習 その20	
第22回	地域文化学特別演習 その21	
第23回	地域文化学特別演習 その22	
第24回	地域文化学特別演習 その23	
第25回	地域文化学特別演習 その24	
第26回	地域文化学特別演習 その25	
第27回	地域文化学特別演習 その26	
第28回	地域文化学特別演習 その27	
第29回	地域文化学特別演習 その28	
第30回	まとめ	

担当者から一言

講義名	地域文化学特別演習（地域・2回生）				担当教員	専攻教員 / 東 幸代 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 京樂 真帆子 / 定森 秀夫 / 田中 俊明 / 塚本 礼仁 / 中井 均 / 濱崎 一志 / 水野 章二	
講義コード	1810280	単位数	8	開講期			
ナンバリング番号	571REG601						

授業概要

地域文化にこめられた歴史的伝統を明らかにし、地域文化の現代的意義を認識し、その研究を深めるために、各自の専攻する分野にしたがって、文献購読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い、研究遂行上の必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。

到達目標

(1) 修士論文の作成において欠かせない専門的な知識と技術を習得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	修士論文の作成において欠かせない専門的な知識と技術を習得するについては、報告の内容により評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教員の指示による。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教員の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化学特別演習（地域・2回生）				担当教員 専攻教員 / 東 幸代 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 京樂 真帆子 / 定森 秀夫 / 田中 俊明 / 塚本 礼仁 / 中井 均 / 濱崎 一志 / 水野 章二
講義コード	1810280	単位数	8	開講期	
ナンバリング番号	571REG601				

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	各担当教員より、各回の内容・スケジュールについて説明する。
第2回	地域文化学特別演習その1	
第3回	地域文化学特別演習その2	
第4回	地域文化学特別演習その3	
第5回	地域文化学特別演習その4	
第6回	地域文化学特別演習その5	
第7回	地域文化学特別演習その6	
第8回	地域文化学特別演習その7	
第9回	地域文化学特別演習その8	
第10回	地域文化学特別演習その9	
第11回	地域文化学特別演習その10	
第12回	地域文化学特別演習その11	
第13回	地域文化学特別演習その12	
第14回	地域文化学特別演習その13	
第15回	地域文化学特別演習その14	
第16回	地域文化学特別演習その15	
第17回	地域文化学特別演習その16	
第18回	地域文化学特別演習その17	
第19回	地域文化学特別演習その18	
第20回	地域文化学特別演習その19	
第21回	地域文化学特別演習その20	
第22回	地域文化学特別演習その21	
第23回	地域文化学特別演習その22	
第24回	地域文化学特別演習その23	
第25回	地域文化学特別演習その24	
第26回	地域文化学特別演習その25	
第27回	地域文化学特別演習その26	
第28回	地域文化学特別演習その27	
第29回	地域文化学特別演習その28	
第30回	まとめ	

担当者から一言

講義名	地域文化学特別研究（地域・1回生）				担当教員	専攻教員 / 東 幸代 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 京樂 真帆子 / 定森 秀夫 / 田中 俊明 / 塚本 礼仁 / 中井 均 / 濱崎 一志 / 水野 章二	
講義コード	1810290	単位数	8	開講期			
ナンバリング番号	571REG602						

授業概要

各自のテーマに応じて、研究の遂行に関わる基本的な事項（研究計画の立案、フィールドワークの技術、作業仮説の設定、データの収集・解析、問題の明確化と整理の手法、論文の作成など）を指導する。

到達目標

(1)地域研究の手法を身に付け、学術的にレベルの高い修士論文をまとめるための能力を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	地域研究の手法を身に付け、学術的にレベルの高い修士論文をまとめるための能力を身につけるについては、報告の内容に基づいて評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教員の指示による。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教員の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化学特別研究（地域・1回生）				担当教員	専攻教員 / 東 幸代 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 京樂 真帆子 / 定森 秀夫 / 田中 俊明 / 塚本 礼仁 / 中井 均 / 濱崎 一志 / 水野 章二	
講義コード	1810290	単位数	8	開講期			
ナンバリング番号	571REG602						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	各担当教員より、各回の内容・スケジュールについて説明する。
第2回	地域文化学研究その1	
第3回	地域文化学研究その2	
第4回	地域文化学研究その3	
第5回	地域文化学研究その4	
第6回	地域文化学研究その5	
第7回	地域文化学研究その6	
第8回	地域文化学研究その7	
第9回	地域文化学研究その8	
第10回	地域文化学研究その9	
第11回	地域文化学研究その10	
第12回	地域文化学研究その11	
第13回	地域文化学研究その12	
第14回	地域文化学研究その13	
第15回	地域文化学研究その14	
第16回	地域文化学研究その15	
第17回	地域文化学研究その16	
第18回	地域文化学研究その17	
第19回	地域文化学研究その18	
第20回	地域文化学研究その19	
第21回	地域文化学研究その20	
第22回	地域文化学研究その21	
第23回	地域文化学研究その22	
第24回	地域文化学研究その23	
第25回	地域文化学研究その24	
第26回	地域文化学研究その25	
第27回	地域文化学研究その26	
第28回	地域文化学研究その27	
第29回	地域文化学研究その28	
第30回	まとめ	

担当者から一言

講義名	地域文化学特別研究（地域・2回生）				担当教員	専攻教員 / 東 幸代 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 京樂 真帆子 / 定森 秀夫 / 田中 俊明 / 塚本 礼仁 / 中井 均 / 濱崎 一志 / 水野 章二	
講義コード	1810300	単位数	8	開講期			
ナンバリング番号	571REG602						

授業概要

各自のテーマに応じて、研究の遂行に関わる基本的な事項（研究計画の立案、フィールドワークの技術、作業仮説の設定、データの収集・解析、問題の明確化と整理の手法、論文の作成など）を指導する。

到達目標

(1)地域研究の手法を身に付け、学術的にレベルの高い修士論文をまとめるための能力を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	地域研究の手法を身に付け、学術的にレベルの高い修士論文をまとめるための能力を身につけることができるについては、報告の内容で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教員の指示による。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教員の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化学特別研究（地域・2回生）				担当教員 専攻教員 / 東 幸代 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 京樂 真帆子 / 定森 秀夫 / 田中 俊明 / 塚本 礼仁 / 中井 均 / 濱崎 一志 / 水野 章二
講義コード	1810300	単位数	8	開講期	
ナンバリング番号	571REG602				

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	各担当教員により各回の内容・スケジュールについて説明する。
第2回	地域文化特別研究その1	
第3回	地域文化特別研究その2	
第4回	地域文化特別研究その3	
第5回	地域文化特別研究その4	
第6回	地域文化特別研究その5	
第7回	地域文化特別研究その6	
第8回	地域文化特別研究その7	
第9回	地域文化特別研究その8	
第10回	地域文化特別研究その9	
第11回	地域文化特別研究その10	
第12回	地域文化特別研究その11	
第13回	地域文化特別研究その12	
第14回	地域文化特別研究その13	
第15回	地域文化特別研究その14	
第16回	地域文化特別研究その15	
第17回	地域文化特別研究その16	
第18回	地域文化特別研究その17	
第19回	地域文化特別研究その18	
第20回	地域文化特別研究その19	
第21回	地域文化特別研究その20	
第22回	地域文化特別研究その21	
第23回	地域文化特別研究その22	
第24回	地域文化特別研究その23	
第25回	地域文化特別研究その24	
第26回	地域文化特別研究その25	
第27回	地域文化特別研究その26	
第28回	地域文化特別研究その27	
第29回	地域文化特別研究その28	
第30回	まとめ	

担当者から一言

講義名	中国文化史特論				担当教員	辻 正博	
講義コード	1810310	単位数	2	開講期			前期集中
ナンバリング番号	571JHS513						

授業概要

今年度は、「伝統中国における文字と書物」と題して、次の3つの話題を取り上げようと思います。
 (1)「諡(おくりな)」という文化
 (2)「避諱」とは何か 「使ってはいけない文字」のある文化
 (3)書物の文化史 書写材料と書物のありかた

到達目標

中国中世～近世の文化を、3つの異なる視点から解説することにより、ステレオタイプのな理解を乗り越えて、歴史の本質を把握できるように努める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	こちらが指示したテーマについて、各人が個別の論題を設定した上で、関連資料を調べてレポートを提出する。字数は4000字程度(以上)。脚注をつけること。
上記以外		

授業外学習

特に実施しないが、毎回の講義内容を受講生自らがノートに整理しておくことが強く望まれる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	概説中国史(上)(下)	富谷至・森田憲司編	昭和堂	
2				
3				

前提学力等

高等学校で履修する「世界史B」のレベルの知識が必要である。

履修資格

講義名	中国文化史特論				担当教員	辻 正博	
講義コード	1810310	単位数	2	開講期			前期集中
ナンバリング番号	571JHS513						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	「諡（おくりな）」という文化（1）	死後に追贈される名前 諡（おくりな）について、具体例を挙げながら、歴史的な意味について解説する。
第2回	「諡（おくりな）」という文化（2）	死後に追贈される名前 諡（おくりな）について、具体例を挙げながら、歴史的な意味について解説する。
第3回	「諡（おくりな）」という文化（3）	死後に追贈される名前 諡（おくりな）について、具体例を挙げながら、歴史的な意味について解説する。
第4回	「諡（おくりな）」という文化（4）	死後に追贈される名前 諡（おくりな）について、具体例を挙げながら、歴史的な意味について解説する。
第5回	「諡（おくりな）」という文化（5）	死後に追贈される名前 諡（おくりな）について、具体例を挙げながら、歴史的な意味について解説する。
第6回	「避諱」とは何か 「使ってはいけない文字」のある文化（1）	伝統中国において、皇帝の諱（本名）は、往々にして避けねばならなかった（避諱）。この習慣が当時の文化にどのような影響をもたらしたかについて概説する。
第7回	「避諱」とは何か 「使ってはいけない文字」のある文化（2）	伝統中国において、皇帝の諱（本名）は、往々にして避けねばならなかった（避諱）。この習慣が当時の文化にどのような影響をもたらしたかについて概説する。
第8回	「避諱」とは何か 「使ってはいけない文字」のある文化（3）	伝統中国において、皇帝の諱（本名）は、往々にして避けねばならなかった（避諱）。この習慣が当時の文化にどのような影響をもたらしたかについて概説する。
第9回	「避諱」とは何か 「使ってはいけない文字」のある文化（4）	伝統中国において、皇帝の諱（本名）は、往々にして避けねばならなかった（避諱）。この習慣が当時の文化にどのような影響をもたらしたかについて概説する。
第10回	「避諱」とは何か 「使ってはいけない文字」のある文化（5）	伝統中国において、皇帝の諱（本名）は、往々にして避けねばならなかった（避諱）。この習慣が当時の文化にどのような影響をもたらしたかについて概説する。
第11回	書物の文化史 書写材料と書物のありかた（1）	中国における書物の歴史を、書写材料と書物の形態の観点から概説する。
第12回	書物の文化史 書写材料と書物のありかた（2）	中国における書物の歴史を、書写材料と書物の形態の観点から概説する。
第13回	書物の文化史 書写材料と書物のありかた（3）	中国における書物の歴史を、書写材料と書物の形態の観点から概説する。
第14回	書物の文化史 書写材料と書物のありかた（4）	中国における書物の歴史を、書写材料と書物の形態の観点から概説する。
第15回	書物の文化史 書写材料と書物のありかた（5）	中国における書物の歴史を、書写材料と書物の形態の観点から概説する。

担当者から一言

少人数の講義になると思いますので、可能な限り、受講生の興味・関心に沿った講義にしたいと思います。

講義名	トランス・ヒマラヤ文化論				担当教員	棚瀬 慈郎	
講義コード	1810340	単位数	2	開講期			前期
ナンバリング番号							

授業概要

インドヒマラヤのチベット社会についての文化人類学的研究を紹介する。その中で、フィールドワークの技法や文化人類学の理論について述べる。

到達目標

チベット社会への理解を深める。
フィールドワークの実際について学ぶ。
文化人類学の理論やタームについて習熟する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	授業における発表状況によって評価する。

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	インドヒマラヤのチベット世界	棚瀬慈郎	明石書店	4750315044
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	日本考古学 A					担当教員	定森 秀夫 / 中井 均 / 花田 勝広
講義コード	1810360	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	571JHS501						

授業概要

日本考古学はすでに100年を優に越す研究史がある。近年の発展めざましい関連諸科学との連携や関連諸国の考古学研究の進展に伴って、研究が充実すると同時に内容は複雑化してきている。本講義ではこれらの要点を現状に即して簡潔に整理し、対象を近江に関連付けながら、日本考古学の現状と課題を論じていく。

到達目標

日本考古学の内容を理解する。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	レポート等
上記以外	60	理解度 (50%)、授業態度 (10%)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	日本生活文化論					担当教員	市川 秀之 / 森 隆男
講義コード	1810380	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	571JPR501						

授業概要

古来日本人は様々な文化を日常生活のレベルで受容し、それを風土の中でたくみに変容して独自の文化形式を作り上げてきた。そこで、人々の生活の営為の総体としての生活文化の実態を明らかにするとともに、そこに見い出される文化の構造や特質といったものを、地域や時代に即して検討する。

到達目標

生活文化を具体例に即して理解すること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外		授業における発表および授業の最後に提出する小レポートによって評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	日本生活文化論				担当教員	市川 秀之 / 森 隆男	
講義コード	1810380	単位数	2	開講期			前期
ナンバリング番号	571JPR501						

授業計画		
------	--	--

回数	タイトル	概要
第1回	民俗学とは	民俗学・歴史民俗学などについての概説をおこなう
第2回	諸国風俗問状答を読む 1	近世後期に記された「諸国風俗問状」の講読およびその解説をおこなう。
第3回	諸国風俗問状答を読む 2	近世後期に記された「諸国風俗問状」の講読およびその解説をおこなう。
第4回	諸国風俗問状答を読む 3	近世後期に記された「諸国風俗問状」の講読およびその解説をおこなう。
第5回	諸国風俗問状答を読む 4	近世後期に記された「諸国風俗問状」の講読およびその解説をおこなう。
第6回	住居と環境 1	各地の事例をもとに、住居と環境に関する講義をおこなう。
第7回	住居と環境 2	各地の事例をもとに、住居と環境に関する講義をおこなう。
第8回	住居と環境 3	各地の事例をもとに、住居と環境に関する講義をおこなう。
第9回	住居と環境 4	各地の事例をもとに、住居と環境に関する講義をおこなう。
第10回	住居と環境 5	各地の事例をもとに、住居と環境に関する講義をおこなう。
第11回	住居の民俗 1	各地の事例をもとに、住居に関連する民俗についての講義をおこなう。
第12回	住居の民俗 2	各地の事例をもとに、住居に関連する民俗についての講義をおこなう。
第13回	住居の民俗 3	各地の事例をもとに、住居に関連する民俗についての講義をおこなう。
第14回	住居の民俗 4	各地の事例をもとに、住居に関連する民俗についての講義をおこなう。
第15回	住居の民俗 5	各地の事例をもとに、住居に関連する民俗についての講義をおこなう。
担当者から一言		

講義名	美術史特論 A					担当教員	亀井 若菜
講義コード	1810400	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号	571JHS507						

授業概要

日本の美術作品を取り上げ、作品を詳しく見、関連文献を購読し、何が、どのように、なぜ、描かれているのかをともに考えていく。また、美術史研究の方法や目的についても、関連する文献を読み、討論を通して、考えていきたい。
言葉とは異なる表現媒体である「イメージ」が何をいせ主張しているのか、「美術」や「イメージ」について考えるとはどういうことなのかを、文献講読、発表、討論を通して探っていく。
なお取り上げる作品や文献は、「美術史特論 B」とは異なるものとする。

到達目標

- (1) 美術の個々の作品が何をいせようとしているのかを、考えることができるようになる。
- (2) 美術史研究の方法について、理解し自ら考えることができるようになる。
- (3) 自分の研究分野において使われるイメージ(視覚的表象)について、分析できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

到達目標(1)(2)については、授業における発言や報告において評価する。(3)については、各自の発表とレポートにより評価する。(1)(2)が50%、(3)が50%。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	北東アジア地域史 A					担当教員	田中 俊明
講義コード	1810420	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号							

授業概要

受講学生が、対外文化交流に関する論文を選んで、その内容をまとめ、コメントする。発表するのは1回につき1人で、全員がその該当論文を読ん
で、発表者の内容まとめとコメントをもとに、議論する。

到達目標

論文に対する読解力、内容把握力、評価能力を身につけること、およびそのテーマをめぐって議論ができることをめざす。さらに、そうしたことによ
って、自らが論文を書き進める時の方法についても身につけることをめざす。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	発表の際の準備状況、当日の発表、他者発表に対する議論などを総合して判断

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

論文は、みずからがコピーして準備する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	北東アジア地域史 A					担当教員	田中 俊明
講義コード	1810420	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号							

授業計画						
回数	タイトル		概要			

回数	タイトル		概要			
第1回	対象論文の選定		授業の進め方について話す。また関連する論文としてどのようなものがあるかについて説明する。それぞれの専門分野に鑑みて、文化交流関連論文のなかから、議論するにふさわしい論文を選定する。			
第2回	論文 1 を読む		今回以後、毎回 1 人が担当して、事前の準備をして、当日、内容のまとめとコメントをつけてもらい、それをもとにそれぞれ読んだ結果も含めて内容について議論する。			
第3回	論文 2 を読む		同上			
第4回	論文 3 を読む		同上			
第5回	論文 4 を読む		同上。ひとまわりする前に、2 本目の論文も、同様に選定しておく。			
第6回	論文 5 を読む		同上			
第7回	論文 6 を読む		同上			
第8回	論文 7 を読む		同上			
第9回	論文 8 を読む		同上			
第10回	論文 9 を読む		同上			
第11回	論文 1 0 を読む		同上			
第12回	論文 1 1 を読む		同上			
第13回	論文 1 2 を読む		同上			
第14回	論文 1 3 を読む		同上			
第15回	論文 1 4 を読む		同上			

担当者から一言						
---------	--	--	--	--	--	--

講義名	北東アジア地域史 B					担当教員	地蔵堂 貞二
講義コード	1810430	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号							

授業概要

本講義のテーマは中国語の白話史である。現代中国語に繋がる白話は唐末・五代の資料からまとまってみられるようになる。授業では唐末・五代、宋代、元代、明代、清代のそれぞれの時代を代表する白話文献（主に明清白話小説）を解説するとともに、作品の一部を講読する。

到達目標

- (1) 白話小説（四大奇書・五大小説）に関する理解を深めることができる。
- (2) 近代漢語で著された文献が専門的辞書を傍らに置きつつも読み進めることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	到達目標(1)について、記述試験を行う。(50%)
レポート課題	50%	到達目標(2)について、作品を指定し、日本語訳の提出を求める。(50%)
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストは使用しない。プリント等を適宜配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書については授業中に適宜紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	北東アジア地域史B					担当教員	地蔵堂 貞二
講義コード	1810430	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号							

授業計画							
------	--	--	--	--	--	--	--

回数	タイトル	概要
第1回	中国語の時代区分について	古代漢語、近代漢語と現代漢語の区分
第2回	文言と白話	(1) 文言と白話の違い (2) 白話の特徴
第3回	白話小説の萌芽()	俗講と敦煌変文について
第4回	白話小説の萌芽()	瓦舍と説話について
第5回	四大奇書と五大小説	『三国演義』『西遊記』『水滸伝』『金瓶梅』と『紅樓夢』について
第6回	『三国演義』について	正史『三国志』と話本『三国志平話』について
第7回	『西遊記』について	(1) 玄奘の『大唐西域記』と話本『大唐三蔵取経詩話』について (2) 作者と淮安方言について
第8回	『西遊記』講読	100回本『西遊記』の一節を読む。
第9回	『水滸伝』について	(1) 正史『宋史』と話本『大宋宣和遺事』 (2) 作者と呉方言について
第10回	『水滸伝』講読	100回本『水滸伝』の一節を読む。
第11回	『金瓶梅』について	(1) 『水滸伝』と『金瓶梅』の関係について (2) 作者と山東方言について
第12回	『金瓶梅』講読	100回本『金瓶梅』の一節を読む。
第13回	『紅樓夢』について	(1) 80回本と120回本について (2) 作者と北京方言について
第14回	『紅樓夢』講読	80回本『紅樓夢』の一節を読む。
第15回	言語の史的的研究について	(1) 同時資料と後時資料について (2) 版本分化について

担当者から一言							

講義名	モンゴル・ディアスポラ論A					担当教員	Borjigin Burensain
講義コード	1810450	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号							

授業概要

いわゆるモンゴル系の民族集団は、モンゴル国のみならず、ロシア（カルムイク共和国、ブリヤート共和国）中国（内モンゴル自治区、青海省、新疆ウイグル自治区）の3カ国に分散居住している。モンゴル・ディアスポラ（離散民族）の特徴は、ホームランドに居住しながらにして、故郷に対する喪失感を持っているところにあるといえる。本講義では、こうしたモンゴル系集団のディアスポラの状況に至る歴史と現代的諸相を中国領モンゴル族とモンゴル国の関連など関連事項を踏まえながら考察する。

到達目標

国境にまたがる民族としてのモンゴル系諸族のディアスポラの状況を歴史・文化的側面から理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	課された課題を提出することやその内容によって評価
上記以外	50	出席状況と授業中の積極的な姿勢などによる評価

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

ボルジギン・ブレンサイン編著『内モンゴルを知るための60章』明石書店、2015年7月

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	モンゴル・ディアスポラ論A				担当教員	Borjigin Burensain	
講義コード	1810450	単位数	2	開講期			前期
ナンバリング番号							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	国境にまたがる「モンゴル世界」が抱える問題点を紹介
第2回	「内・外モンゴル」の分離課程	「外モンゴル」と呼ばれていたモンゴル国と内モンゴル地域の分離課程を講義
第3回	モンゴル国にとっての内モンゴル	独立国家であるモンゴル国にとって中国領となっている内モンゴルはどのような存在なのかを講義する。
第4回	内モンゴルにとってのモンゴル国	中国の少数民族自治区となっている内モンゴルにとってモンゴル国はどのような存在なのかを講義する。
第5回	中国における民族識別作業(1)	現代中国における民族識別作業のプロセスを考察する。
第6回	中国における民族識別作業(2)	現代中国における民族識別作業のプロセスを考察する。
第7回	中ソ関係と「モンゴル問題」(1)	「モンゴル」は中国とロシア両大国に挟まれており、中露関係と「モンゴル問題」の関連性を講義する。
第8回	中ソ関係と「モンゴル問題」(2)	「モンゴル」は中国とロシア両大国に挟まれており、中露関係と「モンゴル問題」の関連性を講義する。
第9回	日中関係と「モンゴル問題」(1)	近代日本と「モンゴル」は密接な関係を持つ。しかし、それは日中関係とも連動しており、その三角関係を考察する。
第10回	日中関係と「モンゴル問題」(2)	近代日本と「モンゴル」は密接な関係を持つ。しかし、それは日中関係とも連動しており、その三角関係を考察する。
第11回	中蒙関係における内モンゴル(1)	中国とモンゴル国との国家関係に挟まれている内モンゴルの特殊性について講義。
第12回	中蒙関係における内モンゴル(2)	中国とモンゴル国との国家関係に挟まれている内モンゴルの特殊性について講義。
第13回	中国の経済発展と「モンゴル」(1)	急速に経済発展を続ける中国にとってモンゴル国と内モンゴル地域はどのような位置づけにあるのかを講義する。
第14回	中国の経済発展と「モンゴル」(2)	急速に経済発展を続ける中国にとってモンゴル国と内モンゴル地域はどのような位置づけにあるのかを講義する。
第15回	まとめ	講義をまとめる

担当者から一言

講義名	モンゴル・ディアスポラ論B				担当教員	島村 一平	
講義コード	1810460	単位数	2	開講期			後期
ナンバリング番号							

授業概要

【内陸アジア文化人類学の最前線】

本講義では、モンゴルを含めた内陸アジアの社会・文化人類学研究の最前線を講じていく。かつてソ連やモンゴル人民共和国など、社会主義を標榜していた当該地域は、市場経済化や民主化といった政治経済的な変化のみならず、さまざまな文化・社会的転回を経験してきた。そうした中、この地域を巡る文化・社会人類学的研究は、ポスト社会主義の遊牧に関する生態・環境人類学的研究や宗教復興あるいは活性化（シャーマニズムや仏教、イスラームなど）などの問題を中心にさまざまな議論が展開されてきた。本講義では、こうした最前線の議論を紹介しながら、議論をしていくという形をとる。英語を含めた指定文献を読むことが必要となろう。

到達目標

内陸アジア文化人類学の最前線を知ることができる。
単なる事実にとどまらず、概念化（理論化）の手法を学ぶことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	
上記以外	50	発表を課すものとする。

レポートと発表で評価するものとする。

授業外学習

指定された文献やレジュメを読んでから、授業に参加することが望ましい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

毎回、レジュメを配布する。

前提学力等

社会・文化人類学の基礎理論を理解していることが望ましい。

履修資格

講義名	対外文化交流特論A					担当教員	田中 俊明
講義コード	1810480	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号							

授業概要

受講学生が、対外文化交流に関する論文を選んで、その内容をまとめ、コメントする。発表するのは1回につき1人で、全員がその該当論文を読んでおいて、発表者の内容まとめとコメントをもとに、議論する。

到達目標

論文に対する読解力、内容把握力、評価能力を身につけること、およびそのテーマをめぐって議論ができることをめざす。さらに、そうしたことによって、自らが論文を書き進める時の方法についても身につけることをめざす。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	発表の際の準備状況、当日の発表、他者発表に対する議論などを総合して判断

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

論文は、みずからがコピーして準備する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	対外文化交流特論A				担当教員	田中 俊明	
講義コード	1810480	単位数	2	開講期			前期
ナンバリング番号							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	対象論文の選定	授業の進め方について話す。また関連する論文としてどのようなものがあるかについて説明する。それぞれの専門分野に鑑みて、文化交流関連論文のなかから、議論するにふさわしい論文を選定する。
第2回	論文1を読む	今回以後、毎回1人が担当して、事前の準備をして、当日、内容のまとめとコメントをつけてもらい、それをもとにそれぞれ読んだ結果も含めて内容について議論する。
第3回	論文2を読む	同上
第4回	論文3を読む	同上
第5回	論文4を読む	同上。ひとまわりする前に、2本目の論文も、同様に選定しておく。
第6回	論文5を読む	同上
第7回	論文6を読む	同上
第8回	論文7を読む	同上
第9回	論文8を読む	同上
第10回	論文9を読む	同上
第11回	論文10を読む	同上
第12回	論文11を読む	同上
第13回	論文12を読む	同上
第14回	論文13を読む	同上
第15回	論文14を読む	同上

担当者から一言

--

講義名	応用言語学特論A				担当教員	小栗 裕子	
講義コード	1810500	単位数	2	開講期			後期
ナンバリング番号	571LAC501						

授業概要

第二言語習得論のテーマである母語の要因や年齢要因、動機づけなどの情意面をどのように外国語学習に応用できるかという理論と実践面を多角的に研究する。

到達目標

- (1) 第二言語習得のメカニズムを理解する
- (2) 外国語学習への応用を研究できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	授業での議論を踏まえ、レポートにまとめる
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	応用言語学特論B				担当教員	Martin Hawkes	
講義コード	1810510	単位数	2	開講期			前期
ナンバリング番号	571LAC502						

授業概要

This course will examine how applied linguistics studies can help us understand second language learning and teaching. It will also introduce some of the research methods required for graduate school studies. The exact content of each class will be determined by students' knowledge and interests. However, the following is a possible course outline:

First, we will explore language teaching methods, and the research that has investigated them; this will include the analysis of classroom interaction. Further, we will look at factors that make good language learners, and some of the research methods that can be used to investigate this area. Finally, we will consider how modern corpora can help us understand language more deeply, and how they can be used as a teaching and learning tools. Course participants can choose a research method to further explore an area of their interest.

到達目標

The aim of this course is as follows:

- To understand issues in second language acquisition and language teaching
- To undergo research method training to conduct second language acquisition/language teaching research

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	Research report: 70%
上記以外	30	Participation and class work: 30%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

There are no set textbooks for this course. Materials will be distributed in class.

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

In this course, students will be expected both to read academic texts and write an assignment in English.

履修資格

講義名	英語詩学特論				担当教員	John Rippey	
講義コード	1810520	単位数	2	開講期			後期
ナンバリング番号	571LAC503						

授業概要

This course deepens understanding of the essential elements of English poetics -- including image, sound, narrative, content, and lineation -- through reading and discussion of prominent works of poetry across the history of English language literature. Poetry and poetics represent a distinct discipline and field of its own. At the same time, poetry and poetics are important elements in every type of language use, whether it be communicative, academic, literary, or other. Poetry and poetics are also sources of pleasure. Working familiarity with poetry and poetics enhances language comprehension and expression and strengthens receptive and productive skills. The course takes a chronological approach to English language poetry and addresses elements of poetics as they emerge in the poems under consideration.

到達目標

- (1) Knowledge of fundamental elements of English language poetics.
- (2) Familiarity with widely known works of English poetry.
- (3) Understanding of the evolution of the English language and English poetics over time.
- (4) Enhanced overall comprehension ability in English, especially in reading skills.
- (5) Enhanced overall expressive ability in English, especially in writing skills.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	(1) 10% (2) 10% (3) 10%
上記以外	50%	Weekly response papers: (1) 10% (2) 10%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	日英対照言語学特論					担当教員	小熊 猛
講義コード	1810530	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号	571LAC504						

授業概要

日本語と英語の機能的対応構文を比較対照し、異なる構文選択を「事態の捉え方」の違いに還元できないかを考察します。

到達目標

- (1) 日英の異なる言語的振る舞い（構文の違い）を発見できる。
- (2) 日英間の相違に基づいて研究課題を設定できる。
- (3) 日英の異なる言語的振る舞いを認知的要因に求めるながら、統一的説明が可能な仮説をたてることができる。
- (4) 仮説を論理的に検証できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	10	(1) 20% (2) 10% (3) 35% (4) 35%

4回以上欠席したものは、評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、関連論文等の資料を配付する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

言語学に関する英文の論文が読めること。

履修資格

講義名	英文学特論				担当教員	山本 薫	
講義コード	1810540	単位数	2	開講期			前期
ナンバリング番号	571LAC505						

授業概要

文学作品は自分の好きなように自由に読んでも十分楽しめるものかもしれないが、作品のおもしろみを生む「仕組み」や「仕掛け」を知るとその楽しみがさらに増す場合がある。とりわけ近年は、従来の固定観念にとらわれず文学作品を様々な切り口で読むことが可能である。この授業では、文学批評の入門書を精読しながら、まず英文学についての基礎知識を養い、文学作品を読み論じる上で必要な概念を理解する。そして、その概念を応用してより深い作品読解を試みる。最終的には、自分の読みが自己満足的な読みで終わらないために、議論と発表を通して自分の読みを他者と共有するという作業も試みる。

到達目標

- (1) 文学批評の入門書を精読しながら、英文学についての基礎知識を養い、文学作品を読み論じる上で必要な概念を理解する。
- (2) 上記の概念を応用して受講者が独自の作品読解を試みる。
- (3) 自分の読みが自己満足的な読みで終わらないために、議論と発表を通して自分の読みを他者と共有するという作業も試みる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0	なし
レポート課題	40	各自が選んだ文学作品についてエッセイにより、授業で学んだ鍵概念がどれだけ理解できているか、および、どれだけ自分の読みを試みているかを評価する。
上記以外	60	予習の達成度、授業中の発表内容により、授業で学んだ鍵概念がどれだけ理解できているか、および、どれだけ自分なりの読み方を形成できているかを評価する。

特別な理由がある場合を除いて、4回以上遅刻・欠席したものは評価の対象としない(遅刻・欠席回数合わせて4回に達した時点で試験を受ける資格を失う)。予習ができていない場合は出席点は与えられない。

授業外学習

受講者は授業中に指示するテキストを読んだうえで議論し、発表を行わねばならない。予習は不可欠である。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に指示する。必要なテキストはプリントして配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	An Introduction to Literature, Criticism and Theory	Andrew Bennett & Nicholas Royle	Longman	978-1-4058-5914-1
2				
3				

授業中に指示する。

前提学力等

基本的な英語読解能力が必要です。

履修資格

講義名	国際文化論特講A					担当教員	吉村 淳一
講義コード	1810550	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	571WOC501						

授業概要

この授業では言語接触によってドイツ語がどのように変化してきたかについて概観する。その際に、音韻・形態・統語・意味などさまざまなレベルでの言語変化を対象とし、いくつかの具体的な事象を取り上げる。さらにそれらに関する研究例を通じて言語学的アプローチの仕方を学ぶ。

到達目標

(1) 言語現象を様々なレベルで分析する方法を身につけることができる。(2) 言語学的な視点に立って問題提起を行い、資料収集することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	(1)と(2)についてはレポートの成績に基づいて評価する。
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

常に問題意識をもちながら、取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリントを配布します。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜紹介します。

前提学力等

現代ドイツ語のついて十分な知識があること。

履修資格

講義名	国際文化論特講A					担当教員	吉村 淳一
講義コード	1810550	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	571W0C501						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	授業の説明
第2回	インド・ヨーロッパ語族	印欧語研究とアプローチの仕方
第3回	ゲルマン語派	西ゲルマン語・北ゲルマン語・東ゲルマン語
第4回	古高ドイツ語(1)	ドイツ語の時代区分・古高ドイツ語の言語的特徴
第5回	古高ドイツ語(2)	言語資料と研究例
第6回	中高ドイツ語(1)	言語的特徴
第7回	中高ドイツ語(2)	言語資料と研究例
第8回	中高ドイツ語(3)	言語資料と研究事例
第9回	中高ドイツ語(4)	言語資料と研究事例
第10回	初期新高ドイツ語(1)	言語的特徴
第11回	初期新高ドイツ語(2)	言語資料と研究事例
第12回	初期新高ドイツ語(3)	言語資料と研究事例
第13回	新高ドイツ語(1)	言語的特徴
第14回	新高ドイツ語(2)	言語資料と研究事例
第15回	現代ドイツ語	言語資料と研究事例

担当者から一言

知識を身につけるというよりは、研究対象へのアプローチの仕方を学んでください。

講義名	国際文化論特講B					担当教員	橋本 周子
講義コード	1810560	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	571WOC502						

授業概要

フランス近代の食 研究に関する重要な先行研究を通じ、その方法論などについて学ぶ。また同時に、18・19世紀フランスの食関連文献を原書で読解し、一次資料の扱いに慣れるための訓練を積む。毎回の授業参加に際しては、一定量のテキストを事前に読んで準備してくることを求める。

到達目標

- (1) フランス近代の美食文化の歴史について知識を得る。
- (2) 自らの関心の在処を知り、適切な資料調査を行ったうえで、それを論理的にまとめることができる。
- (3) 自らの関心事を、他人に説明し、その魅力を説得することができる。
- (4) 研究を遂行するにあたって支障ないレベルのフランス語運用能力を身につけている。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	到達目標で示す(2)(3)については期末レポートで評価する。
上記以外	60	(1)(4)については、日頃の授業での学習姿勢によって総合的に評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	美食家の誕生	橋本周子	名古屋大学出版会	
2				
3				

前提学力等

フランス語中級(フランス語コミュニケーションIIA, IIB, フランス語留学対策)をすべて履修していること。フランス留学経験があることが望ましい。

履修資格

講義名	国際文化論特講B					担当教員	橋本 周子
講義コード	1810560	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	571W0C502						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション：食を考えるために	講義の前提となる思想的潮流について概観します。
第2回	La gourmandise 1	
第3回	La gourmandise 2	
第4回	La gourmandise 3	
第5回	La gourmandise 4	
第6回	La gourmandise 5	
第7回	La santé et l'aliment 1	
第8回	La santé et l'aliment 2	
第9回	La santé et l'aliment 3	
第10回	La santé et l'aliment 4	
第11回	Des innovations alimentaires 1	
第12回	Des innovations alimentaires 2	
第13回	Des innovations alimentaires 3	
第14回	Des innovations alimentaires 4	
第15回	総括	
担当者から一言		

講義名	国際文化論特講C					担当教員	棚瀬 慈郎
講義コード	1810570	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	571WOC503						

授業概要

インドヒマラヤのチベット社会についての文化人類学的研究を紹介する。その中で、フィールドワークの技法や文化人類学の理論について述べる。

到達目標

チベット社会への理解を深める。
フィールドワークの実際について学ぶ。
文化人類学の理論やタームについて習熟する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	授業における発表状況によって評価する。

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	インドヒマラヤのチベット世界	棚瀬慈郎	明石書店	4750315044
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	国際文化論特講C				担当教員	棚瀬 慈郎	
講義コード	1810570	単位数	2	開講期			前期
ナンバリング番号	571W0C503						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	チベット世界の成り立ち	チベット世界の歴史と現状
第2回	チベット世界の成り立ち	チベット世界の歴史と現状
第3回	インドヒマラヤのチベット世界	ラホール溪谷のチベット社会について
第4回	インドヒマラヤのチベット世界	
第5回	インドヒマラヤのチベット世界	
第6回	インドヒマラヤのチベット世界	
第7回	インドヒマラヤのチベット世界	
第8回	インドヒマラヤのチベット世界	
第9回	インドヒマラヤのチベット世界	
第10回	インドヒマラヤのチベット世界	
第11回	インドヒマラヤのチベット世界	
第12回	インドヒマラヤのチベット世界	
第13回	インドヒマラヤのチベット世界	
第14回	インドヒマラヤのチベット世界	
第15回	インドヒマラヤのチベット世界	

担当者から一言

--

講義名	国際文化論特講D					担当教員	Borjigin Burensain
講義コード	1810580	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	571WOC504						

授業概要

いわゆるモンゴル系の民族集団は、モンゴル国のみならず、ロシア（カルムイク共和国、ブリヤート共和国）中国（内モンゴル自治区、青海省、新疆ウイグル自治区）の3カ国に分散居住している。モンゴル・ディアスポラ（離散民族）の特徴は、ホームランドに居住しながらにして、故郷に対する喪失感を持っているところにあるといえる。本講義では、こうしたモンゴル系集団のディアスポラの状況に至る歴史と現代的諸相を中国領モンゴル族とモンゴル国の関連など関連事項を踏まえながら考察する。

到達目標

国境にまたがる民族としてのモンゴル系諸族のディアスポラの状況を歴史・文化的側面から理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	課された課題を提出することやその内容によって評価
上記以外	50	出席状況と授業中の積極的な姿勢などによる評価

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

ボルジギン・ブレンサイン編著『内モンゴルを知るための60章』明石書店、2015年7月

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	国際文化論特講E				担当教員	島村 一平	
講義コード	1810590	単位数	2	開講期			後期
ナンバリング番号	571WOC505						

授業概要

【内陸アジア文化人類学の最前線】

本講義では、モンゴルを含めた内陸アジアの社会・文化人類学研究の最前線を講じていく。かつてソ連やモンゴル人民共和国など、社会主義を標榜していた当該地域は、市場経済化や民主化といった政治経済的な変化のみならず、さまざまな文化・社会的転回を経験してきた。そうした中、この地域を巡る文化・社会人類学的研究は、ポスト社会主義の遊牧に関する生態・環境人類学的研究や宗教復興あるいは活性化（シャーマニズムや仏教、イスラームなど）などの問題を中心にさまざまな議論が展開されてきた。本講義では、こうした最前線の議論を紹介しながら、議論をしていくという形をとる。英語を含めた指定文献を読むことが必要となろう。

到達目標

内陸アジア文化人類学の最前線を知ることができる。
単なる事実にとどまらず、概念化（理論化）の手法を学ぶことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	
上記以外	50	発表を課すものとする。

レポートと発表で評価するものとする。

授業外学習

指定された文献やレジュメを読んでから、授業に参加することが望ましい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

毎回、レジュメを配布する。

前提学力等

社会・文化人類学の基礎理論を理解していることが望ましい。

履修資格

講義名	国際文化論特講F					担当教員	河 かおる
講義コード	1810600	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号	571WOC506						

授業概要

韓国・朝鮮近現代の歴史や社会、マイノリティー問題、ジェンダー論など、担当教員(河)の研究分野と、受講生の研究分野との接点を見い出して、授業で読み合わせる学術論文を決め、受講生が担当した学術論文の内容を要約して発表・論評し、全員で討論する形式で進める。

到達目標

自分が専門外とする分野であっても学術的な論文を正確に読み解き、他者の研究を的確に論評する力を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	課題報告および討論への参加

授業外学習

指定した学術論文を必ず精読してくること。発表の準備をすること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	国際文化論特講F				担当教員	河 かねる	
講義コード	1810600	単位数	2	開講期			後期
ナンバリング番号	571WOC506						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	受講生の顔合わせ
第2回	知識の確認、疑問点の洗い出しのためのグループ・ワーク	
第3回	関連ドキュメンタリー視聴(1) 内容に関する討論	
第4回	関連ドキュメンタリー視聴(2) 内容に関する討論	
第5回	テキストに基づいた報告・討論(1)	
第6回	テキストに基づいた報告・討論(2)	
第7回	テキストに基づいた報告・討論(3)	
第8回	中間まとめ	
第9回	テキストに基づいた報告・討論(4)	
第10回	テキストに基づいた報告・討論(5)	
第11回	テキストに基づいた報告・討論(6)	
第12回	テキストに基づいた報告・討論(7)	
第13回	テキストに基づいた報告・討論(8)	
第14回	テキストに基づいた報告・討論(9)	
第15回	まとめ	

担当者から一言

講義名	国際文化論特講G					担当教員	地蔵堂 貞二
講義コード	1810610	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号	571WOC507						

授業概要

本講義のテーマは中国語の白話史である。現代中国語に繋がる白話は唐末・五代の資料からまとまってみられるようになる。授業では唐末・五代、宋代、元代、明代、清代のそれぞれの時代を代表する白話文献（主に明清白話小説）を解説するとともに、作品の一部を講読する。

到達目標

- (1) 白話小説（四大奇書・五大小説）に関する理解を深めることができる。
- (2) 近代漢語で著された文献が専門的辞書を傍らに置きつつも読み進めることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	到達目標(1)について、記述試験を行う。(50%)
レポート課題	50%	到達目標(2)について、作品を指定し、日本語訳の提出を求める。(50%)
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストは使用しない。プリント等を適宜配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書については授業中に適宜紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	国際文化論特講H				担当教員	呉 凌非	
講義コード	1810620	単位数	2	開講期			後期
ナンバリング番号	571WOC508						

授業概要

本講義は滋賀県立大学大学院生を対象としています。キーワードは、言語、翻訳、異文化接触の3つをあげることができます。言語については、言語学の基礎理論や、格文法、モダリティの比較などの内容について講義します。翻訳については、人間と機械の翻訳を比較しながら講義を展開していきます。異文化接触については、そのメカニズムそしてことばに現れる様相などについて講義します。

到達目標

- (1) 言語学および関連基礎知識を習得すること
- (2) 翻訳学および関連基礎知識を習得すること
- (3) 異文化接触について理解すること
- (4) レポートを提出すること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	(1) 言語学および関連基礎知識を習得すること 15% (2) 翻訳学および関連基礎知識を習得すること 15% (3) 異文化接触について理解興味を持つこと 15%
レポート課題	40%	(1) 授業中の発表がメイン 30% (2) 出席 10%
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	国際文化論特講H				担当教員	呉 凌非	
講義コード	1810620	単位数	2	開講期			後期
ナンバリング番号	571WOC508						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	導入	方法論などについて話をします。
第2回	言語理論その1	中国語の基礎文法について話をします。
第3回	言語理論その2	中国語のモダリティについて話をします。
第4回	言語理論その3	日本語のモダリティについて話をします。
第5回	言語理論その4	格文法について話をします。
第6回	言語理論その5	意味をあらわす深層格について話をします。
第7回	翻訳理論その1	機械翻訳の歩み
第8回	翻訳理論その2	機械翻訳のメカニズム
第9回	翻訳理論その3	機械翻訳例の検討
第10回	翻訳理論その4	翻訳学の研究内容などについて
第11回	翻訳理論その5	翻訳の手法と翻訳例の紹介
第12回	異文化接触その1	異文化接触の面々
第13回	異文化接触その2	日本語と中国語のことばの接触について
第14回	異文化接触その3	外来語について
第15回	まとめ	全体の内容のまとめ

担当者から一言

講義名	地域文化学特別演習（国際・1回生）				担当教員	専攻教員 / 小栗 裕子 / 河 かおる / 小熊 猛 / 呉 凌非 / 島村 一平 / 地蔵堂 貞二 / John Rippey / 棚瀬 慈郎 / 谷口 真紀 / 橋本 周子 / Borjigin Burensain / Martin Hawkes / 山本 薫 / 吉村 淳一	
講義コード	1810630	単位数	8	開講期			
ナンバリング番号	571REG601						

授業概要

西欧やアジアにおける歴史や文化、言語などについて、各学問領域における研究の成果を把握し、自らの学問的なテーマを深めてゆくことをねらいとする。そのために、文献購読や研究成果の発表などをおこない、研究手段に関する理解や専門知識の習得をはかる。

到達目標

修士論文の作成において欠かせない専門的な知識や学問的な方法論を習得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	文献購読や研究発表への参加、討論の状況や報告内容について総合的に評価する。

文献購読や研究発表への参加は原則毎回出席しなければならない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

指導する教員の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化学特別演習（国際・2回生）				担当教員	専攻教員 / 小栗 裕子 / 河 かのる / 小熊 猛 / 呉 凌非 / 島村 一平 / 地蔵堂 貞二 / John Rippey / 棚瀬 慈郎 / 谷口 真紀 / 橋本 周子 / Borjigin Burensain / Martin Hawkes / 山本 薫 / 吉村 淳一	
講義コード	1810640	単位数	8	開講期			
ナンバリング番号	571REG601						

授業概要

修士論文の完成に向けて、各自の研究成果の発表や、その内容についての討論を中心におこなう。

到達目標

自らの研究内容を批判的に検討し、高い学問的水準を保ち、独創性のある修士論文を完成させる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	文献購読や研究発表への参加、討論の状況や報告内容について総合的に評価する。

研究発表会への参加は必須とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

指導する教員の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化学特別研究（国際・1回生）				担当教員	専攻教員 / 小栗 裕子 / 河 かおる / 小熊 猛 / 呉 凌非 / 島村 一平 / 地蔵堂 貞二 / John Rippey / 棚瀬 慈郎 / 谷口 真紀 / 橋本 周子 / Borjigin Burensain / Martin Hawkes / 山本 薫 / 吉村 淳一	
講義コード	1810650	単位数	8	開講期			
ナンバリング番号	571REG602						

授業概要

各自のテーマに応じて、研究の遂行に関わる基本的な事項（研究計画の立案、調査手法、作業仮説の設定、データの収集と解析、問題の明確化と整理の手法、論文の作成など）を指導する。

到達目標

(1) 修士論文の完成に向けて、学問的な方法論を身に付ける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	研究手法の習得状況にしたがって、各指導教員が総合的に判断する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化化学特別研究(国際・2回生)				担当教員	専攻教員/小栗 裕子/河 かおる/ 小熊 猛/呉 凌非/島村 一平/ 地藏堂 貞二/John Rippey/棚瀬 慈郎/ 谷口 真紀/橋本 周子/Borjigin Burensain/ Martin Hawkes/山本 薫/吉村 淳一	
講義コード	1810660	単位数	8	開講期			
ナンバリング番号	571REG602						

授業概要

修士論文の完成に向けて、研究の具体的な進め方について指導する。

到達目標

(1)学術的にレベルの高い修士論文をまとめるための能力を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各自の習得状況にしたがって、指導教員が総合的に判断する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	生活デザインプロジェクト演習				担当教員	専攻教員 / 印南 比呂志 / 面矢 慎介 / 佐々木 一泰 / 藤木 庸介 / 南 政宏 / 宮本 雅子 / 森下 あおい / 山田 歩 / 横田 尚美	
講義コード	1820045	単位数	2	開講期			後期
ナンバリング番号	577LVD501						

授業概要

地域や社会において、よりよい生活環境を実現するために何が問題なのかを明らかにする。その問題に対して取り組む意識や立場、有効な手法を議論し、その解決方法を検討し、具体的な提案や発表、制作等を行う。

到達目標

地域、社会に関わる問題について専門的視点から分析、考察し、解決・提案できる総合的な生活デザイン能力の習得をめざす

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	レポート・制作物等の提出、発表などにもとづき、学科教員全員の協議により評価する

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業時間内に適宜紹介

前提学力等

履修資格

講義名	生活文化学特別演習（生活デザイン分野）				担当教員	専攻教員 / 印南 比呂志 / 面矢 慎介 / 佐々木 一泰 / 藤木 庸介 / 南 政宏 / 宮本 雅子 / 森下 あおい / 山田 歩 / 横田 尚美	
講義コード	1820050	単位数	8	開講期			
ナンバリング番号	577LVD601						

授業概要

各自の専攻する分野にしたがって、文献購読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い研究遂行上の必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。

到達目標

研究遂行上の必要な専門知識、技術を身につける

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	中間発表会での発表、途中の進捗状況、レポート・制作物等によって評価する

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業時間内に適宜紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	生活文化学特別演習（生活デザイン分野）				担当教員	専攻教員 / 印南 比呂志 / 面矢 慎介 / 佐々木 一泰 / 藤木 庸介 / 南 政宏 / 宮本 雅子 / 森下 あおい / 山田 歩 / 横田 尚美	
講義コード	1820060	単位数	8	開講期			
ナンバリング番号	577LVD601						

授業概要

各自の専攻する分野にしたがって、文献購読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い研究遂行上の必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。

到達目標

研究遂行上の必要な専門知識、技術を身につける

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	途中の進捗状況、レポート・口頭発表・制作物等によって評価する

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業時間内に適宜紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	生活文化学特別研究（生活デザイン分野）				担当教員	専攻教員 / 印南 比呂志 / 面矢 慎介 / 佐々木 一泰 / 藤木 庸介 / 南 政宏 / 宮本 雅子 / 森下 あおい / 山田 歩 / 横田 尚美	
講義コード	1820070	単位数	8	開講期			
ナンバリング番号	577LVD602						

授業概要

各自の専攻する分野にしたがって、文献購読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い研究遂行上の必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。

到達目標

研究遂行上の必要な専門知識、技術を身につける

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	中間発表会での発表、途中の進捗状況、レポート・口頭発表・制作物等によって評価する

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業時間内に適宜紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	生活文化学特別研究（生活デザイン分野）				担当教員	専攻教員 / 印南 比呂志 / 面矢 慎介 / 佐々木 一泰 / 藤木 庸介 / 南 政宏 / 宮本 雅子 / 森下 あおい / 山田 歩 / 横田 尚美	
講義コード	1820080	単位数	8	開講期			
ナンバリング番号	577LVD602						

授業概要

各自の研究テーマに応じて、研究計画の立案、調査、実験、実証技術の習得、作業仮説の設定、データ収集と解析と評価、問題の明確化と整理の手法、論文・作品の作成など研究の遂行に関わる基本的事項について指導する。

到達目標

修士論文・修士制作の完成

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	提出された論文・作品が、修士研究の水準にあるかどうかを判断し合否判定を行う。研究の成果として制作物を提出することもできる。詳細は修士研究審査基準に関する内規による

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業時間内に適宜紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	道具デザイン特論A					担当教員	面矢 慎介
講義コード	1820105	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	577TLD501						

授業概要

道具デザインに関する専門的かつ理論的知見を深めるために、主として近代から現代にいたる生活用具および生活機器のデザイン変遷について、いくつかの事例を選び、その技術的、経済的、社会的、文化的背景からの分析・評価をおこなう。関連資料の探索・収集、資料批判、実物資料（最終製品）の実見のほか、ときにはメーカー関係者やデザイナーからの聞き取り、その道具の使用実態の調査などを含む。

到達目標

道具デザインに関する専門的かつ理論的知見を深める。そのために探索した資料からの構造化について習熟する。（１）自分でテーマを探索し決定できる。（２）テーマに沿った資料探索ができる。（３）資料にもとづいた中間報告ができる。（４）各資料を関係づけその相互関係を構造化できる。（５）資料調査にもとづいた考察を文章にまとめができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	80	最終レポート
上記以外	20	授業中の発表

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	The Social Construction of Technological Systems	Bijker, Hughes, and Pinch	MIT Press	
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	道具デザイン特論B					担当教員	印南 比呂志
講義コード	1820115	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号	577TLD502						

授業概要

日本国内の様々な地域活動や地場産業、アジア、欧州における事例を参考にしながら進める。そして、その製品の歴史、市場、変遷、社会的価値についてさまざまな視点から考察を試みる。また、ものづくりとしての製品開発における企画設計プロセス、市場での製品流通やマネジメントに至るまでの実際を学ぶ。講義を通じて、以上の趣旨を理解しかつ道具デザインのための資源発掘や、課題解決に関する方針・計画・ノウハウなどについて理解を図る。

到達目標

- ・道具のデザイン開発者の基本姿勢やねらいの持ち方を、地域の課題と関連づけて理解できる。
- ・個別の道具紹介事例における、資源発掘、課題発見及び課題解決のプロセスが理解できる。
- ・自身の生活環境における道具デザイン上の課題について、学究的な視点により考察していく能力をつける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	80	最終レポート課題による評価20%、中間発表の評価60%
上記以外	20	フィールド調査課題

授業外学習

ローカルな地域産業や、海外の地域的な産業を注視しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	複製技術の時代の芸術	ヴァルター・ベンヤミン	晶文社	978-4794912664
2	インダストリアルデザインの歴史	ジョン・ヘスケット	晶文社	4-7949-56888-6
3				

前提学力等

履修資格

講義名	道具デザイン特論C					担当教員	南 政宏
講義コード	1820117	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	577TLD503						

授業概要

多様化しつつあるデザインの役割への知識を深める。デザインによって解決される問題について掘り下げを行い、デザインに求められる現実的なテーマを設定し、商品企画、パッケージ、ブランディング、デザイン、流通など実践的なデザインテーマを通しての分析・考察・提案を行なう。

到達目標

調査から問題を見つけ出し、デザイン手法を用いた問題発見能力、問題解決能力、提案能力、表現力などを習得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	中間発表と、最終成果物

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	特になし			
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	道具デザイン特論C					担当教員	南 政宏
講義コード	1820117	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	577TLD503						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション 問題解決型デザインについて
第2回	課題とするテーマの模索	テーマを各自で模索する
第3回	課題とするテーマの決定	テーマを相談し決定する。
第4回	課題のリサーチ	課題の調査を行う
第5回	課題のリサーチ	課題の調査を行う
第6回	課題のリサーチ	課題の調査を行う
第7回	課題のリサーチ中間発表	調査の中間発表
第8回	デザインによるソリューションの考察	デザインによるソリューションを検討する。
第9回	デザインによるソリューションの考察	デザインによるソリューションを検討する。
第10回	デザインによるソリューションの考察	デザインによるソリューションを検討する。
第11回	商品企画、パッケージ、ブランディング提案	商品企画、パッケージ、ブランディングについて検討する。
第12回	商品企画、パッケージ、ブランディング提案	商品企画、パッケージ、ブランディングについて検討する。
第13回	商品企画、パッケージ、ブランディング提案	商品企画、パッケージ、ブランディングについて検討する。
第14回	企画のプレゼンテーション準備	企画のプレゼンテーション準備
第15回	プレゼンテーション 道具デザインについてのまとめ	最終発表 まとめ

担当者から一言

講義名	服飾デザイン特論A					担当教員	森下 あおい
講義コード	1820135	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	577FSD501						

授業概要

この講義では感性表現としての服飾デザインの在り様に着目し、事例についての考察を行う。特に20世紀の服飾デザインの作品を対象として、デザインと感性との関係から、服飾デザインを探究する。後半では各自が設定した作品、テーマを調査し考察する。

到達目標

- (1) 感性表現としての服飾を理解する。
- (2) 服飾デザインの分析的視点を養う

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	課題に対して自らが適切なテーマを設定し考察を行う
上記以外	50	分析的視点で意見をまとめる

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業でプリントを配布します

前提学力等

履修資格

講義名	服飾デザイン特論A					担当教員	森下 あおい
講義コード	1820135	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	577FSD501						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	人体と衣服	服飾の基体である人体について
第2回	造形としての服飾	服飾の機能、装飾の表現について
第3回	服飾における美の問題	美的対象としての服飾について
第4回	服飾の芸術性	服飾と芸術の関係について
第5回	美の解釈	服飾における多様な美について
第6回	秩序と調和	秩序と調和の問題について
第7回	まとめ	まとめ
第8回	文献研究(1)	リサーチ
第9回	文献研究(2)	リサーチ
第10回	発表	テーマごとの発表
第11回	事例研究(1)	リサーチ
第12回	事例研究(2)	リサーチ
第13回	発表	テーマごとの発表
第14回	考察	議論
第15回	まとめ	講義のまとめ

担当者から一言

講義名	服飾デザイン特論B					担当教員	横田 尚美
講義コード	1820136	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号	577FSD502						

授業概要

服飾デザインに関する文献研究を進めるのに必要な要素を持つ4つの文献を講読して、研究の基礎となる知識を得るとともに、その背景を理解する。一次資料の扱い方や、各自の論文制作に役立つ研究方法と論文構成などについても学ぶ。服飾の現物史料の展示を見学し、文献以外の資料を用いたい研究についても関心を持たせる。

到達目標

- (1) 19世紀～20世紀初めの女性服の現代化について理解できる。
- (2) デザインの優れた作品を批評できるようになる。
- 3 論文をまとめる力が向上する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	(3)については、1～2回程度のレポートで評価する。
上記以外	50	(1)(2)については、それぞれのテーマについての発表内容と授業態度により、評価する。

授業外学習

ほぼ毎回、発表を求める。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、講義の中で紹介する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	マーケティング特論					担当教員	山田 歩
講義コード	1820137	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	577MKD501						

授業概要

消費者のニーズや行動傾向を観察・分析することを通して、製品やサービスの価値をどのように高めることができるのか、あるいは、どのように高めるべきなのかを考える。文献講読のほか、製品・サービスの利用実態調査や消費者行動実験を行うことによって、既存製品・サービスの問題の発見、より良い製品・サービスの提案を行う。

到達目標

マーケティング分野における問題発見能力と問題解決能力を習得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	課題を適切に捉えているか。 発想にオリジナリティがあるか。 わかやすく、また、ロジカルに考えを表現できているか。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	運動処方学特論					担当教員	東田 一彦
講義コード	1820140	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号							

授業概要

運動・スポーツおよび栄養によるエネルギー代謝調節に関連した過去の論文や最新の論文を輪読し、当該分野の理解を深める。

到達目標

- (1) 運動・スポーツと栄養摂取がエネルギー代謝に及ぼす影響について理解する。
(2) 運動・スポーツと栄養摂取が健康に及ぼす影響について理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	(1)(2)最終レポートにより評価する。
上記以外	60	(1)(2)講義中の議論で評価する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	運動処方学特論					担当教員	東田 一彦
講義コード	1820140	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号							

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	講義の概要説明と資料の配布
第2回	論文の輪読 1	
第3回	論文の輪読 2	
第4回	論文の輪読 3	
第5回	論文の輪読 4	
第6回	論文の輪読 5	
第7回	論文の輪読 6	
第8回	論文の輪読 7	
第9回	論文の輪読 8	
第10回	論文の輪読 9	
第11回	論文の輪読 1 0	
第12回	論文の輪読 1 1	
第13回	論文の輪読 1 2	
第14回	論文の輪読 1 3	
第15回	講義のまとめ	

担当者から一言

講義名	運動生理・生化学特論				担当教員	東田 一彦	
講義コード	1820145	単位数	2	開講期			後期集中
ナンバリング番号	572NUT522						

授業概要

運動・スポーツおよび栄養によるエネルギー代謝調節に関連した過去の論文や最新の論文を輪読し、当該分野の理解を深める。

到達目標

- (1) 運動・スポーツと栄養摂取がエネルギー代謝に及ぼす影響について理解する。
(2) 運動・スポーツと栄養摂取が健康に及ぼす影響について理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	(1)(2)最終レポートにより評価する。
上記以外	60	(1)(2)講義中の議論で評価する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	運動生理・生化学特論					担当教員	東田 一彦
講義コード	1820145	単位数	2	開講期	後期集中		
ナンバリング番号	572NUT522						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	講義の概要説明と資料の配布
第2回	論文の輪読 1	
第3回	論文の輪読 2	
第4回	論文の輪読 3	
第5回	論文の輪読 4	
第6回	論文の輪読 5	
第7回	論文の輪読 6	
第8回	論文の輪読 7	
第9回	論文の輪読 8	
第10回	論文の輪読 9	
第11回	論文の輪読 1 0	
第12回	論文の輪読 1 1	
第13回	論文の輪読 1 2	
第14回	論文の輪読 1 3	
第15回	講義のまとめ	

担当者から一言

講義名	栄養応答論					担当教員	福渡 努
講義コード	1820150	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	572NUT513						

授業概要

栄養素が消化、吸収、代謝され、生理作用を発揮する際に、各刺激に対する情報が細胞内外に伝達され、分子・細胞・組織・生体レベルでそれぞれ調節・制御機構が働く。分子レベル・細胞レベルで栄養素と生体が相互作用することによって情報伝達が始まり、その情報が制御・調節機構を介して臓器、さらには生体全体におよぼす影響について、文献を読み、ディスカッションを行うことによって理解することが、本講義のねらいである。

到達目標

- (1) 栄養素と生体との間の相互作用およびそれに起因する生命現象について説明できる。
- (2) 先制医療に対する栄養学の貢献について自分の考えを説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0%	
レポート課題	30%	到達目標(2)について、自らの考えを問うためのレポート課題を課す。
上記以外	70%	到達目標(1)および(2)について、毎回、ディスカッションでの発表を課す。

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリント配布を行う。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

生化学、生理学、分子生物学、基礎栄養学、応用栄養学、栄養疫学について理解していること

履修資格

講義名	栄養応答論					担当教員	福渡 努
講義コード	1820150	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	572NUT513						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	講義の目的と概要	本講義のねらい、趣旨、学習のしかたについて概説する。
第2回	タンパク質に対する応答1	タンパク質摂取に関する文献を読み、その内容についてディスカッションする。
第3回	タンパク質に対する応答2	タンパク質摂取に関する文献を読み、その内容についてディスカッションする。
第4回	タンパク質に対する応答3	タンパク質摂取に関する文献を読み、その内容についてディスカッションする。
第5回	脂質に対する応答1	脂質摂取に関する文献を読み、その内容についてディスカッションする。
第6回	脂質に対する応答2	脂質摂取に関する文献を読み、その内容についてディスカッションする。
第7回	脂質に対する応答3	脂質摂取に関する文献を読み、その内容についてディスカッションする。
第8回	糖質に対する応答1	糖質摂取に関する文献を読み、その内容についてディスカッションする。
第9回	糖質に対する応答2	糖質摂取に関する文献を読み、その内容についてディスカッションする。
第10回	糖質に対する応答3	糖質摂取に関する文献を読み、その内容についてディスカッションする。
第11回	ビタミンに対する応答1	ビタミン摂取に関する文献を読み、その内容についてディスカッションする。
第12回	ビタミンに対する応答2	ビタミン摂取に関する文献を読み、その内容についてディスカッションする。
第13回	ビタミンに対する応答3	ビタミン摂取に関する文献を読み、その内容についてディスカッションする。
第14回	ミネラルに対する応答1	ミネラル摂取に関する文献を読み、その内容についてディスカッションする。
第15回	ミネラルに対する応答2	ミネラル摂取に関する文献を読み、その内容についてディスカッションする。

担当者から一言

--

講義名	学校栄養教育実践特論					担当教員	大谷 貴美子
講義コード	1820190	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	572NUT518						

授業概要

まず、食べることの基本的な理解を深め、幼児期、学童期、思春期、青年期の食事の意義を、体の健康とこころの健康の両面から考えてもらう。また、彼らのおかれている現代的課題についても理解を深め、問題解決のためにどのような食教育が求められているのか、を明確にさせ、効果的な授業の在り方について、授業計画を立てさせ、模擬授業を通して、考察をさせる。併せて、国内外の論文や、書籍を読ませ、それらの発表を通して、食の世界を拓けていただく。

到達目標

食教育が必要とされる現代的課題とその背景を理解させるとともに、問題解決のための食教育の在り方を考え、実践させる力をつける

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70%	課題に対して、どれだけ文献等の検索ができ、自分の考えを反映したレポートが書けたかを評価する。
上記以外	30%	模擬授業を通じて、学生のプレゼンテーション能力、意欲を評価する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

各自にそれぞれ課題を与えるので、どれだけその課題に対して調べ学習ができたのか、課題発表時に評価する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書とはしないが、持っていた方がよい本

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中にプリントを配布する

前提学力等

履修資格

講義名	学校栄養教育実践特論					担当教員	大谷 貴美子
講義コード	1820190	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	572NUT518						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	食べることの基本的理解	食べられることが、基本的人権の中でも、最も重要な人としての権利であることをりかいさせる。
第2回	貧困と食	貧富の差は、食事内容に影響を与え、子どもの脳の発達にも多大な影響を与える。貧困は、開発途上国の問題だけではなく、日本の国内にも存在することに気付かせる。
第3回	映画鑑賞	「天のしずく」を鑑賞させ、食について考えたこと、学んだことを考察させる。
第4回	食とこころ	食とこころの問題について考える
第5回	もてなしの心とは	もてなしのこころを精進料理に学ぶ
第6回	幼児期の食の意味	幼児期の食の大切さを理解させる
第7回	学童期の食の意味	学童期の食の大切さを理解させる
第8回	学校給食の意味	学校給食の現代的意義と課題
第9回	映画鑑賞	イギリスの給食革命 を鑑賞させ、学校給食の意義や食教育の在り方を学ぶ
第10回	映画鑑賞	イギリスの給食革命 を鑑賞させ、学校給食の意義や食教育の在り方を学ぶ
第11回	模擬授業	学生に、課題を与え、その課題解決のための授業計画案を発表させ、また模擬授業を行わせ、修正点などをみんなで話し合う
第12回	模擬授業	学生に、課題を与え、その課題解決のための授業計画案を発表させ、また模擬授業を行わせ、修正点などをみんなで話し合う
第13回	模擬授業	学生に、課題を与え、その課題解決のための授業計画案を発表させ、また模擬授業を行わせ、修正点などをみんなで話し合う
第14回	効果的な食教育とはー学童期	実践事例の紹介
第15回	効果的な食教育とはー思春期	実践事例の紹介

担当者から一言

講義名	住環境デザイン特論A					担当教員	宮本 雅子
講義コード	1820235	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	577RED501						

授業概要

心理的・生理的に快適な室内空間を計画するためには、人間とインテリア・エレメントとの相互関係を捉える必要がある。そのための実験・調査手法を論じるとともに、それらについての研究資料を通じて室内環境計画上の問題点について考察する。また、超高齢社会となった現在、快適な室内環境を計画していくためにはユニバーサルデザインの視点を取り入れていく必要がある。その意義について論じるとともに住居計画での事例を分析する。

到達目標

- (1)室内環境計画の調査手法について理解する。
- (2)室内環境にかかわる問題について、その解決策を調査・検討できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標の(1)室内環境計画の調査手法について理解する、については、課題発表30%、(2)室内環境にかかわる問題について、その解決策を調査・検討できる、については、最終レポート40%、課題発表30%で評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書：日本建築学会編「環境心理調査手法入門」技報堂出版、日本建築学会編「コンパクト建築設計資料集成バリアフリー」丸善、他

前提学力等

履修資格

講義名	住環境デザイン特論B					担当教員	藤木 庸介
講義コード	1820236	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	577RED502						

授業概要

都市や地域における生活空間の構成手法について、歴史、文化、社会、経済、技術といった視点から考える。特に、世界の各地域における、地域に固有な生活空間（居住空間、集落空間、都市空間）の形態とその構成原理について、既往研究成果の理解を通して比較考察するとともに、伝統的な生活空間の持つ意味をどのように現代の生活空間計画に継承・反映しうるのか、そのあり方について考える。

授業は受講者による発表とその後の議論という形式をとる。

到達目標

- (1) 様々な地域の固有な生活空間（居住空間、集落空間、都市空間）の形態とその構成原理について理解する。
- (2) 具体的な地域の生活空間を事例を挙げて自らリサーチし、分析、考察の上、その構成原理を説明することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	本授業を通して得た知識、各自のリサーチ結果とその分析、考察等をリサーチペーパーとしてまとめ、提出を求める。これを到達目標に照らし合わせて評価を行う。評価の比率は、(1)を50%、(2)を50%とする。
上記以外		

授業時間の3分の1以上を欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書は授業内で適宜紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	住環境デザイン特論C					担当教員	佐々木 一泰
講義コード	1820237	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号	577RED503						

授業概要

年度ごとにテーマを設定し、様々な場所から、空間をデザインしているエレメントを抽出し、地域性や機能性、属性、関係性など、より実践的、専門的な視点から調査・分析する。また、それぞれのエレメントの問題点や、引用、転用の可能性を探り、実践的な空間デザインへの応用を考える。

到達目標

空間デザインの比較・考察が出来る。それを各々具体的な手段によって表現する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	住環境デザイン特論C					担当教員	佐々木 一泰
講義コード	1820237	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号	577RED503						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	空間をデザインエレメントの解説
第2回	調査対象物のグループワーク-1	
第3回	調査対象物のグループワーク-2	
第4回	調査対象物のグループワーク-3	
第5回	調査対象物のグループワーク-4	
第6回	各エレメントの調査(各自発表)-1	
第7回	各エレメントの調査(各自発表)-2	
第8回	各エレメントの調査(各自発表)-3	
第9回	各エレメントの調査(各自発表)-4	
第10回	各エレメントの調査(各自発表)-5	
第11回	各エレメントの調査(各自発表)-6	
第12回	空間制作を通じてのエレメント分析(各自発表)-1	
第13回	空間制作を通じてのエレメント分析(各自発表)-2	
第14回	空間制作を通じてのエレメント分析(各自発表)-3	
第15回	まとめ	

担当者から一言

講義名	食品栄養特論					担当教員	小西 洋太郎 / 木戸 康博
講義コード	1820250	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	572NUT520						

授業概要

(木戸) 食品学、栄養学に関する最近の話題、最新の知見を取り上げ、解説する。

(小西) 世界人口の急増に伴い、穀物の確保は食料問題の中心的課題である。この5回の講義では、「穀物と健康」という観点から、米や雑穀の食品機能と利用について紹介し、穀物を見直すきっかけにしたい。

到達目標

食品の加工と生理機能、栄養学的側面から見た味覚と嗜好、タンパク質とアミノ酸の必要量についての最新知見を理解することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	
上記以外	50	発表 30% 小テスト 20%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

学術論文を授業前に配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	食品機能論					担当教員	森 紀之
講義コード	1820260	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号	572NUT517						

授業概要

食品には、生命を維持する栄養機能（一次機能）、おいしさなどの感覚機能（二次機能）の他に、生体調節機能ともいべき三次機能がある。具体的には、生体防御、疾病の予防・回復・体調の調節、老化制御などがある。食品機能論では、これまでに明らかにされた各種食品の生理機能性物質とその作用機構、また評価方法について講述するとともに、適宜新しい機能性研究についても紹介する。さらに、各自が食素材/機能性を選択し、その研究をどのように展開していくかをまとめ発表し、議論する。

到達目標

(1) 食品の有する第3次機能としての生理機能性物質とその作用機構、さらに機能性の評価方法について理解することができる。
(2) 食品成分あるいは食素材を選定し、生理機能探求に向けたテーマを設定することができる。さらに、その内容をまとめ、他者に発表・討議することを通して、研究展開への妥当性を見いだす能力を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	到達目標の(1)食品の有する第3次機能としての生理機能性物質とその作用機構、さらに機能性の評価方法について理解することができる
上記以外	50	食品成分あるいは食素材を選定し、生理機能探求に向けたテーマを設定することができる。さらに、その内容をまとめ、他者に発表・討議することを通して、研究展開への妥当性を見いだす能力を身につけることができるについてプレゼンテーション等で評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキスト：指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	食品機能論					担当教員	森 紀之
講義コード	1820260	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号	572NUT517						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	本講義の進め方、意義について説明する。
第2回	植物性食品由来成分の機能性 1	食品機能に関する概論について理解する。
第3回	植物性食品由来成分の機能性 2	抗酸化機能に関わる成分と作用機構について理解する。
第4回	植物性食品由来成分の機能性 3	抗酸化機能の評価方法について理解する。
第5回	植物性食品由来成分の機能性 4	抗酸化機能に関わる最近に知見について理解する。
第6回	動物性食品由来成分の機能性 1	循環系調節機能に関わる成分と作用機構について理解する。
第7回	動物性食品由来成分の機能性 2	循環系調節機能の評価方法について理解する。
第8回	微生物の有する機能性 1	プロバイオティクス機能について理解する。
第9回	微生物の有する機能性 2	最近のプロバイオティクス機能に関する知見について理解する。
第10回	微生物の有する機能性 3	食品あるいは食素材から機能性成分の分離方法について理解する。
第11回	各自設定したテーマで発表・討議 1	各自テーマの選択、検討を行う。
第12回	各自設定したテーマで発表・討議 2	文献・資料等の整理を行う。
第13回	各自設定したテーマで発表・討議 3	プレゼンテーションを行う。
第14回	各自設定したテーマで発表・討議 4	討議・講評を行う。
第15回	まとめ	本講義で得られた内容について理解する。
担当者から一言		

講義名	生活文化学特別演習（健康栄養分野）				担当教員	専攻教員 / 今井 絵理 / 遠藤 弘史 / 奥村 万寿美 / 小澤 恵子 / 佐野 光枝 / 柴田 克己 / 中井 直也 / 東田 一彦 / 廣瀬 潤子 / 福渡 努 / 村上 健太郎 / 森 紀之 / 矢野 仁康	
講義コード	1820280	単位数	8	開講期			
ナンバリング番号	572NUT601						

授業概要

各自の専攻する分野にしたがって、文献購読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い、研究遂行上の必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。

到達目標

研究遂行上の必要な専門知識、技術を身につける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	指導教員が、研究課題の進捗状況報告に基づき評価を行う。担当教員が、中間発表（毎年7月）に基づき評価を行う

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	生活文化学特別演習（健康栄養分野）				担当教員	専攻教員 / 今井 絵理 / 遠藤 弘史 / 奥村 万寿美 / 小澤 恵子 / 佐野 光枝 / 柴田 克己 / 中井 直也 / 東田 一彦 / 廣瀬 潤子 / 福渡 努 / 村上 健太郎 / 森 紀之 / 矢野 仁康	
講義コード	1820290	単位数	8	開講期			
ナンバリング番号	572NUT601						

授業概要

各自の専攻する分野にしたがって、文献購読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い、研究遂行上の必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。

到達目標

研究遂行上の必要な専門知識、技術を身につける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	指導教員が、研究課題の進捗状況報告に基づき評価を行う。担当教員が、中間発表（毎年7月）に基づき評価を行う

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	生活文化学特別研究（健康栄養分野）				担当教員	専攻教員 / 今井 絵理 / 遠藤 弘史 / 奥村 万寿美 / 小澤 恵子 / 佐野 光枝 / 柴田 克己 / 中井 直也 / 東田 一彦 / 廣瀬 潤子 / 福渡 努 / 村上 健太郎 / 森 紀之 / 矢野 仁康	
講義コード	1820300	単位数	8	開講期			
ナンバリング番号	572NUT602						

授業概要

各自の研究テーマに応じて、研究計画の立案、実験・実証技術の習得、作業仮説の設定、データ収集と解析と評価、問題の明確化と整理の手法、論文の作成など研究の遂行に関わる基本的事柄について指導する。

到達目標

各自の研究テーマに応じ、研究の遂行に関わる基本的事柄について修得し、最終的に論文を作成する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	指導教員が、各自の研究テーマに応じ、研究の遂行に関わる基本的事柄についての習得状況を評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	生活文化学特別研究（健康栄養分野）				担当教員	専攻教員 / 今井 絵理 / 遠藤 弘史 / 奥村 万寿美 / 小澤 恵子 / 佐野 光枝 / 柴田 克己 / 中井 直也 / 東田 一彦 / 廣瀬 潤子 / 福渡 努 / 村上 健太郎 / 森 紀之 / 矢野 仁康	
講義コード	1820310	単位数	8	開講期			
ナンバリング番号	572NUT602						

授業概要

各自の研究テーマに応じて、研究計画の立案、実験・実証技術の習得、作業仮説の設定、データ収集と解析と評価、問題の明確化と整理の手法、論文の作成など研究の遂行に関わる基本的事柄について指導する。

到達目標

各自の研究テーマに応じ、研究の遂行に関わる基本的事柄について修得し、最終的に論文を作成する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	修士論文の提出と発表を行い担当教員が評価を行う

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域食育実践学特論				担当教員	今井 絵理	
講義コード	1820320	単位数	2	開講期			後期
ナンバリング番号	572NUT524						

授業概要

国民の疾病予防、生涯にわたる健康の保持・増進を目的とした、地域での食育の実践の方法を「人間の健康と食をめぐる問題を地域ぐるみで解決する視点」から論ずる。
食育を通じた地域交流、食の安全・安心の確保、食文化の継承、地産地消の推進など、地域社会に根ざした多種多様な食育推進活動の展開について、事例を紹介しながら講義する。

到達目標

- (1)地域における食育推進の必要性が理解できる。
(2)地域における食育活動の実態が理解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	調理科学特論				担当教員	小川 正	
講義コード	1820330	単位数	2	開講期			前期
ナンバリング番号	572NUT519						

授業概要

食品を摂取するに当たり、その素材の嗜好性、消化性、栄養性、安全性、の向上を目的として調理や加工を行う。食品素材は多様な成分系であり、その成分構成により複雑な調理特性および加工特性を示す。本特論ではこれら素材の成分の違いが調理・加工特性に及ぼす影響を化学的、物理学的に解きほぐす。講義の過程で原著論文を参考資料として読み解き、解説する力を習得する。

到達目標

英文論文の読解力、レポート作成能力などの向上、

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70%	レポートの内容
上記以外	30%	討論における発言力、思考力、などを総合的に評価する

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特別に作成した講義資料・P Pにより講義を進める。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

食品学、生化学関連分野の基礎知識の復習・予習を怠らないこと

前提学力等

履修資格

講義名	病態栄養学特論					担当教員	矢野 仁康
講義コード	1820335	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	572NUT514						

授業概要

近年、我々国民の健康を脅かす疾患として、癌、脳卒中、心臓病、糖尿病、高血圧症などの生活習慣病が注目されている。これら生活習慣病の発症と進行を防ぐためには、病気と栄養の関係を明らかにし、栄養の面から疾病の予防や治療に取り組む事が不可欠となる。本講義では、これら生活習慣病の病態についてその分子レベルから臨床病態に至るまでを講義する事で、各々の疾患についての適切な栄養管理はもちろん、これら病気にならないためにどのような栄養摂取をすればよいか予防医学的な見地からも理解を深めていく。

到達目標

代謝において疾病の起こる病態を理解できる
臓器において疾病の起こる病態を理解できる
栄養、代謝系疾患について理解できる
栄養管理に不可欠な病態の正確な理解ができる

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標で示した、代謝において疾病の起こる病態を理解できる 臓器において疾病の起こる病態を理解できる 栄養、代謝系疾患について理解できる 栄養管理に不可欠な病態の正確な理解ができる、について、については各々課題レポート30%、については10%で評価を行い、100点満点で60点以上を合格とする。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

人体の構造と機能について理解している事
疾病の成因、病態、診断、治療について理解している事

履修資格

講義名	臨床栄養管理特論					担当教員	奥村 万寿美
講義コード	1820342	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号	572NUT515						

授業概要

急性疾患に対する栄養管理や慢性疾患に対する長期にわたる栄養管理など医療施設における患者の実態把握は栄養アセスメントに不可欠である。患者の病態や病状等に応じた適切な栄養アセスメント、栄養診断により具体的な栄養ケアおよび栄養マネジメントプランを立案し、疾病の治癒・回復に役立てなければならない。患者の社会生活環境や療養環境などのほか医学・医療の場における栄養管理の現状を踏まえ、管理栄養士としてどのような役割を果たしていくのか患者調査や症例研究によって考える。

到達目標

- (1) 管理栄養士として医療（福祉・介護）現場における責務と学部卒生とは異なる使命（NSTにおける栄養専門分野の指導的役割や組織運営力、研究力）であることが理解できる。
- (2) 学部で学んだ栄養ケアマネジメント（NCM）および栄養に関する知識と技術を用いて、患者の栄養指導、栄養管理について責任を持って実践できる。
- (3) 患者の社会生活環境や療養環境などのほか医学・医療の場における栄養管理の現状を踏まえ、管理栄養士としてどのような役割を果たしていくのか事例（患者調査や症例研究）に研究活動に繋げるていくことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標に示す(1)10%、(2)80%、(3)10%で、各課題におけるレポート評価100%
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

必要に応じてプリントを配付する。

前提学力等

履修資格

講義名	臨床栄養管理特論				担当教員	奥村 万寿美	
講義コード	1820342	単位数	2	開講期			後期
ナンバリング番号	572NUT515						

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	期待される管理栄養士	管理栄養士について考えてみよう
第2回	栄養食事指導	食事療養制度と栄養食事指導の位置づけ ～診療報酬から考えてみよう～
第3回	栄養ケアプロセス	栄養ケアプロセス ～医療診断と栄養診断～
第4回	ITの活用	ITの活用と患者の個人情報管理（電子カルテの利用とセキュリティ）
第5回	P O S	P O S による栄養指導記録（S O A P による記述の方法と問題点の分析）
第6回	栄養必要量	患者の栄養必要量と栄養管理（栄養アセスメントとケアプラン）
第7回	チーム医療における管理栄養士の役割	チーム医療に関わる関連職種および管理栄養士の役割とその連携のあり方や、栄養サポートチームの意義について認識し、傷病者の栄養管理について説明する。
第8回	急性疾患の栄養マネジメント	消化器術前・術後（外科的代謝変動、栄養投与再開に伴う生体反応、栄養投与経路、栄養介入に必要な器材、栄養法、経口摂取開始の判断と手順等を含む）の栄養管理の役割と方法について説明する
第9回	糖尿病の栄養マネジメント	糖尿病患者の症例に基づく栄養食事指導とその問題点
第10回	糖尿病腎症の栄養マネジメント	糖尿病合併症患者の症例に基づく栄養食事指導とその問題点
第11回	肝硬変症例	肝臓・膵臓疾患の症例に基づく栄養食事指導とその問題点
第12回	透析患者	腎慢性腎臓病（CKD）症例 透析患者の問題点と栄養食事指導
第13回	循環器疾患	循環器疾患の症例に基づく栄養食事指導とその問題点
第14回	炎症性腸疾患	炎症性腸疾患・クローン病、その他の症例に基づく栄養食事指導とその問題点
第15回	症例研究	症例研究と患者に対するインフォームド・コンセント、仮説の設定と調査方法の検討
担当者から一言		

講義名	学校教育論特講				担当教員	木村 裕	
講義コード	1820361	単位数	2	開講期			後期
ナンバリング番号	572EDU601						

授業概要

グローバル化の進行する現代社会において学校内外の教育が直面する課題の様相とそれを克服するための取り組みに注目し、今後のカリキュラム開発や授業づくりのあり方について検討する機会を提供することをめざす。

到達目標

グローバル化の進行する現代社会において学校内外の教育が直面する課題の様相とそれを克服するための取り組みの実態について知るとともに、今後のカリキュラム開発や授業づくりのあり方について、自分なりの考えを提起できるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	まとめのレポート
上記以外	60	講義中に指示する発表資料の作成ならびに議論への貢献

まとめのレポートの提出がない場合、単位認定は行わない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	オーストラリアのグローバル教育の理論と実践 - 開発教育研究の継承と新たな展開	木村裕	東信堂	4798912204
2				
3				

教科書を用いて講義を進めるため、入手しておくこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	行動発達論特講					担当教員	竹下 秀子
講義コード	1820370	単位数	2	開講期	後期		
ナンバリング番号	572PSY601						

授業概要

人間関係論の立場から、人間行動の発達にかかわる問題点を解明し、講義する。

到達目標

生涯続く人間としての発達をとらえる視点と方法について、発達心理学および関連領域の成果から学び、人生の各ステージにおける教育的人間関係と支援のあり方について分析・考察し、論じる力を向上させる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	授業中の討論や担当教員によって指定された提出レポートを総合して評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	行動発達論特講				担当教員	竹下 秀子	
講義コード	1820370	単位数	2	開講期			後期
ナンバリング番号	572PSY601						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	心の多様性と変容	ガイダンス
		人間発達進化と子ども期
		論文講読と討論
		認知と学習の発達進化
		論文講読と討論
		社会性と自我機能の発達進化
		論文講読と討論
		胎児・新生児期の発達と支援
		論文講読と討論
		乳幼児期の発達と支援の課題
		論文講読と討論
		少年期の発達と支援の課題
		青年期、成人期の発達と支援の課題
		進化、社会、文化、歴史的側面から見た子育て
		総括と討論

担当者から一言

講義名	社会学特講 A					担当教員	大橋 松行 / 中村 好孝 / 丸山 真央
講義コード	1820391	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	572S0C601						

授業概要

社会学の各分野の基本文献の講読や講義を通じて、社会学という学問の概観を把握するとともに、その理解を深めることを目標とする。具体的には、社会運動、メディア、福祉などの分野の研究を中心に上げ、社会の構造と変動を理論的・実証的に理解する視点と方法を学ぶ。

到達目標

現代社会の諸事象について、社会学の視点と方法を用いて理解することができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	担当者ごとにレポートを課す。
上記以外	50%	発表・報告を実施する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書はその都度紹介する。授業中にプリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	社会学特講 A					担当教員	大橋 松行 / 中村 好孝 / 丸山 真央
講義コード	1820391	単位数	2	開講期	前期		
ナンバリング番号	572S0C601						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	この授業全体について、ガイダンスを実施する。
第2回	新しい社会運動（１）	新しい社会運動としての市民運動を学ぶ。
第3回	新しい社会運動（２）	新しい社会運動としての住民運動を学ぶ。
第4回	新しい社会運動（３）	新しい社会運動としての環境運動を学ぶ。
第5回	社会情報と社会調査（１）	社会情報を活用した社会調査の方法を考える。
第6回	社会情報と社会調査（２）	社会情報を活用した社会調査の実践例を学ぶ。
第7回	社会情報と社会調査（３）	社会情報を活用した社会調査の課題を考える。
第8回	中間のまとめ（１）	第2回～第7回までの中間的総括を行う。
第9回	臨床現場の社会学（１）	セルフヘルプについて、社会的な議論を紹介する。
第10回	臨床現場の社会学（２）	当事者研究論について、社会的に考える。
第11回	臨床現場の社会学（３）	アサーティブ訓練について、社会的に考える。
第12回	中間のまとめ（２）	第9回～第11回までの中間的総括を行う。
第13回	社会と文化（１）	メディア分析の方法と実践について学ぶ。
第14回	社会と文化（２）	文化社会学の方法と実践について学ぶ。
第15回	全体のまとめ	社会学の方法と実践について講義全体のまとめを行う。

担当者から一言

講義名	生活文化学特別演習（人間関係分野）				担当教員	専攻教員 / 上野 有理 / 大橋 松行 / 木村 裕 / 杉浦 由香里 / 竹下 秀子 / 中村 好孝 / 原 未来 / 細馬 宏通 / 松嶋 秀明 / 丸山 真央	
講義コード	1820400	単位数	8	開講期			
ナンバリング番号	572HRS620						

授業概要

各自の専攻する分野にしたがって、文献購読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い、研究遂行に必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。

到達目標

研究遂行に必要な専門知識や技術、関連知識を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	発表や各指導教員によって指定された提出レポートを総合して評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

前提学力等

履修資格

講義名	生活文化学特別演習（人間関係分野）				担当教員	専攻教員 / 上野 有理 / 大橋 松行 / 木村 裕 / 杉浦 由香里 / 竹下 秀子 / 中村 好孝 / 原 未来 / 細馬 宏通 / 松嶋 秀明 / 丸山 真央	
講義コード	1820410	単位数	8	開講期			
ナンバリング番号	572HRS620						

授業概要

各自の専攻する分野にしたがって、文献講読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い、研究遂行に必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。

到達目標

研究遂行に必要な専門知識や技術、関連知識を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	発表や各指導教員によって指示された提出レポートを総合して評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

前提学力等

履修資格

講義名	生活文化学特別研究（人間関係分野）				担当教員	専攻教員 / 上野 有理 / 大橋 松行 / 木村 裕 / 杉浦 由香里 / 竹下 秀子 / 中村 好孝 / 原 未来 / 細馬 宏通 / 松嶋 秀明 / 丸山 真央	
講義コード	1820420	単位数	8	開講期			
ナンバリング番号	572HRS621						

授業概要

各自の研究テーマに応じて、研究計画の立案、実験・実証技術の修得、作業仮説の設定、データ収集と解析と評価、問題の明確化と整理の手法、論文の作成など研究の遂行に関わる基本的事柄について指導する。

到達目標

各自のテーマに応じて論文を作成するための基礎的な研究をおこない、成果としてまとめる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	発表や各教員によって指示された提出レポート等を総合して評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

前提学力等

履修資格

講義名	生活文化学特別研究（人間関係分野）				担当教員	専攻教員 / 上野 有理 / 大橋 松行 / 木村 裕 / 杉浦 由香里 / 竹下 秀子 / 中村 好孝 / 原 未来 / 細馬 宏通 / 松嶋 秀明 / 丸山 真央	
講義コード	1820430	単位数	8	開講期			
ナンバリング番号	572HRS621						

授業概要

各自の研究テーマに応じて、研究計画の立案、実験・実証技術の修得、作業仮説の設定、データ収集と解析と評価、問題の明確化と整理の手法、論文の作成など研究の遂行に関わる基本的事柄について指導する。

到達目標

各自のテーマに応じ、研究を実施し論文を作成する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	修士論文中間発表と修士論文の内容、および公聴会での状況を総合して評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

前提学力等

履修資格

講義名	日本・地域文化論特別演習				担当教員	専攻教員/東 幸代/市川 秀之/ 亀井 若菜/京樂 真帆子/武田 俊輔/ 塚本 礼仁/中井 均/水野 章二	
講義コード	2930010	単位数	4	開講期			
ナンバリング番号	776JRE701						

授業概要

専門分野・隣接分野について、日本の各地域・各時代を扱った研究論文等を精読し、基礎理論、方法論および先行研究の成果に関する理解を深める。

到達目標

(1)研究テーマにおける問題の所在や専門分野の研究動向に対する洞察力を涵養する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	研究テーマにおける問題の所在や専門分野の研究動向に対する洞察力を涵養するについては、報告と討論の内容による。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教員の指示による。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教員の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	日本・地域文化論特別演習				担当教員	専攻教員/東 幸代/市川 秀之/ 亀井 若菜/京樂 真帆子/武田 俊輔/ 塚本 礼仁/中井 均/水野 章二	
講義コード	2930010	単位数	4	開講期			
ナンバリング番号	776JRE701						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	各担当教員より各回の内容・スケジュールについて説明する。
第2回	日本・地域文化論演習 その1	
第3回	日本・地域文化論演習その2	
第4回	日本・地域文化論演習その3	
第5回	日本・地域文化論演習その4	
第6回	日本・地域文化論演習その5	
第7回	日本・地域文化論演習その6	
第8回	日本・地域文化論演習その7	
第9回	日本・地域文化論演習その8	
第10回	日本・地域文化論演習その9	
第11回	日本・地域文化論演習その10	
第12回	日本・地域文化論演習その11	
第13回	日本・地域文化論演習その12	
第14回	日本・地域文化論演習その13	
第15回	日本・地域文化論演習その14	
第16回	日本・地域文化論演習その15	
第17回	日本・地域文化論演習その16	
第18回	日本・地域文化論演習その17	
第19回	日本・地域文化論演習その18	
第20回	日本・地域文化論演習その19	
第21回	日本・地域文化論演習その20	
第22回	日本・地域文化論演習その21	
第23回	日本・地域文化論演習その22	
第24回	日本・地域文化論演習その23	
第25回	日本・地域文化論演習その24	
第26回	日本・地域文化論演習その25	
第27回	日本・地域文化論演習その26	
第28回	日本・地域文化論演習その27	
第29回	日本・地域文化論演習その28	
第30回	まとめ	

担当者から一言

講義名	日本・地域文化論特別研究				担当教員	専攻教員/東 幸代/市川 秀之/ 亀井 若菜/京樂 真帆子/武田 俊輔/ 塚本 礼仁/中井 均/水野 章二	
講義コード	2930020	単位数	0	開講期			
ナンバリング番号	776JRE702						

授業概要

日本における地域文化の領域について、歴史的・国際的視点に立脚し、理論的・応用的な研究課題を設定させ、分析方法、調査方法、研究成果のまとめ方などについて高度な指導を行う。

到達目標

(1)独創的かつ専門的な博士論文を作成させるための能力を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	独創的かつ専門的な博士論文を作成させるための能力を身につけることができるについては、研究報告の内容により評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教員の指示による。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教員の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	日本・地域文化論特別研究				担当教員	専攻教員/東 幸代/市川 秀之/ 亀井 若菜/京樂 真帆子/武田 俊輔/ 塚本 礼仁/中井 均/水野 章二	
講義コード	2930020	単位数	0	開講期			
ナンバリング番号	776JRE702						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	各担当教員により各回の内容・スケジュールの説明をする。
第2回	日本・地域文化論特別研究その1	
第3回	日本・地域文化論特別研究その2	
第4回	日本・地域文化論特別研究その3	
第5回	日本・地域文化論特別研究その4	
第6回	日本・地域文化論特別研究その5	
第7回	日本・地域文化論特別研究その6	
第8回	日本・地域文化論特別研究その7	
第9回	日本・地域文化論特別研究その8	
第10回	日本・地域文化論特別研究その9	
第11回	日本・地域文化論特別研究その10	
第12回	日本・地域文化論特別研究その11	
第13回	日本・地域文化論特別研究その12	
第14回	日本・地域文化論特別研究その13	
第15回	日本・地域文化論特別研究その14	
第16回	日本・地域文化論特別研究その15	
第17回	日本・地域文化論特別研究その16	
第18回	日本・地域文化論特別研究その17	
第19回	日本・地域文化論特別研究その18	
第20回	日本・地域文化論特別研究その19	
第21回	日本・地域文化論特別研究その20	
第22回	日本・地域文化論特別研究その21	
第23回	日本・地域文化論特別研究その22	
第24回	日本・地域文化論特別研究その23	
第25回	日本・地域文化論特別研究その24	
第26回	日本・地域文化論特別研究その25	
第27回	日本・地域文化論特別研究その26	
第28回	日本・地域文化論特別研究その27	
第29回	日本・地域文化論特別研究その28	
第30回	まとめ	

担当者から一言

講義名	アジア・地域文化論特別演習				担当教員	専攻教員 / 定森 秀夫 / 島村 一平 / 田中 俊明 / 棚瀬 慈郎 / Borjigin Burensain	
講義コード	2930030	単位数	4	開講期			
ナンバリング番号	776ARE701						

授業概要

専攻する地域（アジア）・時代の論文や調査報告書を精読する。また、現地調査を実施させ、その際に作成したフィールドノートをもとに討議する。

到達目標

(1)海外地域（アジア）研究の手法を身に付け、論文や調査報告書の作成につなげられる力を習得することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	海外地域（アジア）研究の手法を身に付け、論文や調査報告書の作成につなげられる力を習得することができるについては、報告の内容と討論の内容による。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教員の指示による。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教員の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	アジア・地域文化論特別演習				担当教員	専攻教員 / 定森 秀夫 / 島村 一平 / 田中 俊明 / 棚瀬 慈郎 / Borjigin Burensain	
講義コード	2930030	単位数	4	開講期			
ナンバリング番号	776ARE701						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	各担当教員により各回の内容・スケジュールについて説明する。
第2回	アジア・地域文化論特別演習その1	
第3回	アジア・地域文化論特別演習その2	
第4回	アジア・地域文化論特別演習その3	
第5回	アジア・地域文化論特別演習その4	
第6回	アジア・地域文化論特別演習その5	
第7回	アジア・地域文化論特別演習その6	
第8回	アジア・地域文化論特別演習その7	
第9回	アジア・地域文化論特別演習その8	
第10回	アジア・地域文化論特別演習その9	
第11回	アジア・地域文化論特別演習その10	
第12回	アジア・地域文化論特別演習その11	
第13回	アジア・地域文化論特別演習その12	
第14回	アジア・地域文化論特別演習その13	
第15回	アジア・地域文化論特別演習その14	
第16回	アジア・地域文化論特別演習その15	
第17回	アジア・地域文化論特別演習その16	
第18回	アジア・地域文化論特別演習その17	
第19回	アジア・地域文化論特別演習その18	
第20回	アジア・地域文化論特別演習その19	
第21回	アジア・地域文化論特別演習その20	
第22回	アジア・地域文化論特別演習その21	
第23回	アジア・地域文化論特別演習その22	
第24回	アジア・地域文化論特別演習その23	
第25回	アジア・地域文化論特別演習その24	
第26回	アジア・地域文化論特別演習その25	
第27回	アジア・地域文化論特別演習その26	
第28回	アジア・地域文化論特別演習その27	
第29回	アジア・地域文化論特別演習その28	
第30回	まとめ	

担当者から一言

講義名	アジア・地域文化論特別研究				担当教員	専攻教員 / 定森 秀夫 / 島村 一平 / 田中 俊明 / 棚瀬 慈郎 / Borjigin Burensain	
講義コード	2930040	単位数	0	開講期			
ナンバリング番号	776ARE702						

授業概要

現地調査と文字資料、歴史史料などを総合することで、アジアの地域文化の形成、発展、現状を分析し、実態解明を図る。また、その成果を高めるべく、比較研究を進めさせる。

到達目標

(1) 独創的かつ専門的な博士論文を作成させるための能力を身につけることができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	独創的かつ専門的な博士論文を作成させるための能力を身につけることができるについては、研究報告の内容により評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教員の指示による。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教員の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	アジア・地域文化論特別研究				担当教員	専攻教員 / 定森 秀夫 / 島村 一平 / 田中 俊明 / 棚瀬 慈郎 / Borjigin Burensain	
講義コード	2930040	単位数	0	開講期			
ナンバリング番号	776ARE702						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	各担当教員により各回の内容・スケジュールについて説明する。
第2回	アジア・地域文化論特別研究その1	
第3回	アジア・地域文化論特別研究その2	
第4回	アジア・地域文化論特別研究その3	
第5回	アジア・地域文化論特別研究その4	
第6回	アジア・地域文化論特別研究その5	
第7回	アジア・地域文化論特別研究その6	
第8回	アジア・地域文化論特別研究その7	
第9回	アジア・地域文化論特別研究その8	
第10回	アジア・地域文化論特別研究その9	
第11回	アジア・地域文化論特別研究その10	
第12回	アジア・地域文化論特別研究その11	
第13回	アジア・地域文化論特別研究その12	
第14回	アジア・地域文化論特別研究その13	
第15回	アジア・地域文化論特別研究その14	
第16回	アジア・地域文化論特別研究その15	
第17回	アジア・地域文化論特別研究その16	
第18回	アジア・地域文化論特別研究その17	
第19回	アジア・地域文化論特別研究その18	
第20回	アジア・地域文化論特別研究その19	
第21回	アジア・地域文化論特別研究その20	
第22回	アジア・地域文化論特別研究その21	
第23回	アジア・地域文化論特別研究その22	
第24回	アジア・地域文化論特別研究その23	
第25回	アジア・地域文化論特別研究その24	
第26回	アジア・地域文化論特別研究その25	
第27回	アジア・地域文化論特別研究その26	
第28回	アジア・地域文化論特別研究その27	
第29回	アジア・地域文化論特別研究その28	
第30回	まとめ	

担当者から一言

--

講義名	考現学・保存修景論特別演習				担当教員	専攻教員 / 石川 慎治 / 濱崎 一志	
講義コード	2930050	単位数	4	開講期			
ナンバリング番号	776MAC701						

授業概要

考現学、保存修景論、地域展開論などの分野の論文を読み、また、これらの分野に応じた現地調査・実習も行う。さらに、その成果を素材として討論を行う。

到達目標

(1)考現学・保存修景論分野の専門的な研究遂行力を高めることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	考現学・保存修景論分野の専門的な研究遂行力を高めることができるについては、報告・討論の内容による。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教員の指示による。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教員の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	考現学・保存修景論特別演習				担当教員	専攻教員 / 石川 慎治 / 濱崎 一志	
講義コード	2930050	単位数	4	開講期			
ナンバリング番号	776MAC701						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	各担当教員より各回の内容・スケジュールについて説明する。
第2回	考現学・保存修景論特別演習その1	
第3回	考現学・保存修景論特別演習その2	
第4回	考現学・保存修景論特別演習その3	
第5回	考現学・保存修景論特別演習その4	
第6回	考現学・保存修景論特別演習その5	
第7回	考現学・保存修景論特別演習その6	
第8回	考現学・保存修景論特別演習その7	
第9回	考現学・保存修景論特別演習その8	
第10回	考現学・保存修景論特別演習その9	
第11回	考現学・保存修景論特別演習その10	
第12回	考現学・保存修景論特別演習その11	
第13回	考現学・保存修景論特別演習その12	
第14回	考現学・保存修景論演習その13	
第15回	考現学・保存修景論特別演習その14	
第16回	考現学・保存修景論特別演習その15	
第17回	考現学・保存修景論特別演習その16	
第18回	考現学・保存修景論特別演習その17	
第19回	考現学・保存修景論特別演習その18	
第20回	考現学・保存修景論特別演習その19	
第21回	考現学・保存修景論特別演習その20	
第22回	考現学・保存修景論特別演習その21	
第23回	考現学・保存修景論特別演習その22	
第24回	考現学・保存修景論特別演習その23	
第25回	考現学・保存修景論特別演習その24	
第26回	考現学・保存修景論特別演習その25	
第27回	考現学・保存修景論特別演習その26	
第28回	考現学・保存修景論特別演習その27	
第29回	考現学・保存修景論特別演習その28	
第30回	まとめ	

担当者から一言

講義名	考現学・保存修景論特別研究				担当教員	専攻教員 / 石川 慎治 / 濱崎 一志	
講義コード	2930060	単位数	0	開講期			
ナンバリング番号	776MAC702						

授業概要

地域文化の歴史的展開、現状、展望（将来的に想定される意味）を明らかにすることはもちろん、望ましい伝統文化については、その保存修景の方策を考察する。

到達目標

(1) 独創的かつ専門的な博士論文を作成させるための能力を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	独創的かつ専門的な博士論文を作成させるための能力を身につけることができるについては、研究報告の内容により評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教員の指示による。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教員の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	考現学・保存修景論特別研究				担当教員	専攻教員 / 石川 慎治 / 濱崎 一志	
講義コード	2930060	単位数	0	開講期			
ナンバリング番号	776MAC702						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	各担当教員より各回の内容・スケジュールについて説明する。
第2回	考現学・保存修景論特別研究その1	
第3回	考現学・保存修景論特別研究その2	
第4回	考現学・保存修景論特別研究その3	
第5回	考現学・保存修景論特別研究その4	
第6回	考現学・保存修景論特別研究その5	
第7回	考現学・保存修景論特別研究その6	
第8回	考現学・保存修景論特別研究その7	
第9回	考現学・保存修景論特別研究その8	
第10回	考現学・保存修景論特別研究その9	
第11回	考現学・保存修景論特別研究その10	
第12回	考現学・保存修景論特別研究その11	
第13回	考現学・保存修景論特別研究その12	
第14回	考現学・保存修景論特別研究その13	
第15回	考現学・保存修景論特別研究その14	
第16回	考現学・保存修景論特別研究その15	
第17回	考現学・保存修景論特別研究その16	
第18回	考現学・保存修景論特別研究その17	
第19回	考現学・保存修景論特別研究その18	
第20回	考現学・保存修景論特別研究その19	
第21回	考現学・保存修景論特別研究その20	
第22回	考現学・保存修景論特別研究その21	
第23回	考現学・保存修景論特別研究その22	
第24回	考現学・保存修景論特別研究その23	
第25回	考現学・保存修景論特別研究その24	
第26回	考現学・保存修景論特別研究その25	
第27回	考現学・保存修景論特別研究その26	
第28回	考現学・保存修景論特別研究その27	
第29回	考現学・保存修景論特別研究その28	
第30回	まとめ	

担当者から一言

講義名	生活デザイン論特別演習				担当教員	専攻教員 / 印南 比呂志 / 面矢 慎介 / 佐々木 一泰 / 藤木 庸介 / 南 政宏 / 宮本 雅子 / 森下 あおい / 山田 歩 / 横田 尚美	
講義コード	2930070	単位数	4	開講期			
ナンバリング番号	777LVD701						

授業概要

生活デザイン論のなかでインテリア、住居、都市、地域を含む住環境デザイン、道具デザイン、服飾デザインの各分野において、最新の研究成果である各種文献を読み、紹介し、そして討論し、それらの分野の知見と研究動向を把握させ、研究方法を更に修得させ、問題の所在や新たな研究の方向を洞察する能力を養成する。

到達目標

研究分野に関する知見と研究動向を把握し、研究方法を修得し、問題の所在や新たな研究の方向を洞察する能力を身につける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	授業に対する取り組みや発表内容・討論による

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業内で適宜紹介する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	生活デザイン論特別研究				担当教員	専攻教員 / 印南 比呂志 / 面矢 慎介 / 佐々木 一泰 / 藤木 庸介 / 南 政宏 / 宮本 雅子 / 森下 あおい / 山田 歩 / 横田 尚美	
講義コード	2930080	単位数	0	開講期			
ナンバリング番号	777LVD702						

授業概要

住環境デザイン、道具デザイン、服飾デザインなど生活デザインの各分野並びにこれらの横断的な分野に関するテーマについて、複数の教員によって指導し、その成果を博士論文にまとめさせる。

到達目標

研究分野において、新たな研究の方向を自律的に探求し、独創的かつ専門的な博士論文を作成する

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	研究への取り組みや研究成果による

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業内で適宜紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	健康栄養論特別演習				担当教員	専攻教員/今井 絵理/遠藤 弘史/ 奥村 万寿美/小澤 恵子/佐野 光枝/ 柴田 克己/中井 直也/東田 一彦/ 廣瀬 潤子/福渡 努/村上 健太郎/ 森 紀之/矢野 仁康	
講義コード	2930090	単位数	4	開講期			
ナンバリング番号	777NUT701						

授業概要

健康栄養論に関する知見の進歩・国際比較を考慮に入れて、最新の研究論文・総説を紹介させ、質問と討論を行う。

到達目標

研究分野に関する知見から研究動向を把握し、また研究方法を修得することによって、問題の所在、研究の方向性を洞察できる能力を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	担当教員が、中間発表及び研究分野における最新知見(研究論文・総説など)を紹介するプレゼンテーション内容から評価を行う

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	健康栄養論特別研究				担当教員	専攻教員/今井 絵理/遠藤 弘史/ 奥村 万寿美/小澤 恵子/佐野 光枝/ 柴田 克己/中井 直也/東田 一彦/ 廣瀬 潤子/福渡 努/村上 健太郎/ 森 紀之/矢野 仁康	
講義コード	2930100	単位数	0	開講期			
ナンバリング番号	777NUT702						

授業概要

各自の研究テーマに応じて研究を遂行し、博士研究論文の作成を目指す。

到達目標

博士研究論文を作成することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	研究の進捗状況に応じて担当教員が評価を行う

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	人間関係論特別演習				担当教員	専攻教員 / 上野 有理 / 大橋 松行 / 木村 裕 / 杉浦 由香里 / 竹下 秀子 / 中村 好孝 / 原 未来 / 細馬 宏通 / 松嶋 秀明 / 丸山 真央	
講義コード	2930110	単位数	4	開講期			
ナンバリング番号	777HRS720						

授業概要

心理学、社会学、教育学など人間関係論に関わる諸分野において、最新の研究成果である各種文献を読み、討論する。これにより、諸分野の知見や研究方法を習得させ、問題の所在や新たな研究の方向を洞察する能力を養成する。

到達目標

研究分野に関する知見と研究方法を習得し、問題の所在や新たな研究の方向を洞察する能力を養成する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	授業に対する取組や発表内容、討論等を総合して評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

前提学力等

履修資格

講義名	人間関係論特別研究				担当教員	専攻教員 / 上野 有理 / 大橋 松行 / 木村 裕 / 杉浦 由香里 / 竹下 秀子 / 中村 好孝 / 原 未来 / 細馬 宏通 / 松嶋 秀明 / 丸山 真央	
講義コード	2930120	単位数	0	開講期			
ナンバリング番号	777HRS721						

授業概要

心理学、社会学、教育学など人間関係論に関わる諸分野、ならびにこれらの分野を横断的に扱う固有のテーマを選定し、研究をおこないその成果を博士論文にまとめさせる。

到達目標

関連の研究分野において、新たな研究の方向を自律的に探究し、独創的かつ専門的な博士論文を作成する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	研究への取組や研究成果を総合して評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指定する。

前提学力等

履修資格

講義名	研究方法特論				担当教員	専攻教員 / 小栗 裕子 / 面矢 慎介 / 松嶋 秀明	
講義コード	2930130	単位数	2	開講期			通年集中
ナンバリング番号	777HCL701						

授業概要

学生が幅広い視野の元に研究を進めていけるよう、関連する研究領域の研究方法について、主たる指導教員以外からも指導を受けられる機会をつくる。学生は研究テーマの追求にあたって、それに関連する領域を担当する複数の教員（主たる指導教員以外の教員）の研究室を訪問し、研究テーマ、研究方法、研究倫理、そのほか研究者として必要な技法や理論的知識について個別指導を受ける。

到達目標

(1)複数教員からの指導をもとに研究テーマを追求し、幅広い視野を身に付けることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	主指導教員と訪問先研究室教員との合議による合否判定

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	リサーチ・ワークショップ				担当教員	専攻教員 / 小栗 裕子 / 面矢 慎介 / 松嶋 秀明	
講義コード	2930140	単位数	2	開講期			通年集中
ナンバリング番号	777HCL702						

授業概要

学生の研究を個々の専門分野の垣根を越えて組織的、多面的に指導・支援するために、履修者全員と担当教員全員が出席するワークショップを年2回ほど開催する。履修者は事前に報告要旨を提出し、その上で自らの研究計画・研究報告を発表し、質疑を受ける。ワークショップ終了後、質疑応答の結果を踏まえて改善した研究計画書および論文執筆計画書をまとめる。

到達目標

(1)自身の研究を多面的にとらえ、研究の遂行と論文執筆に取組むための能力を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	ワークショップ参加教員による合議で合否を判定する

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	リサーチ・ワークショップ					担当教員	専攻教員 / 小栗 裕子 / 面矢 慎介 / 松嶋 秀明
講義コード	2930140	単位数	2	開講期	通年集中		
ナンバリング番号	777HCL702						

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	
第2回	ワークショップ実施計画	
第9回	報告要旨の提出	
第10回	ワークショップ	各自の研究計画・研究報告を発表し、参加教員全員からの質疑を受ける。
第15回	成果物の提出	研究計画書、論文執筆計画書

担当者から一言